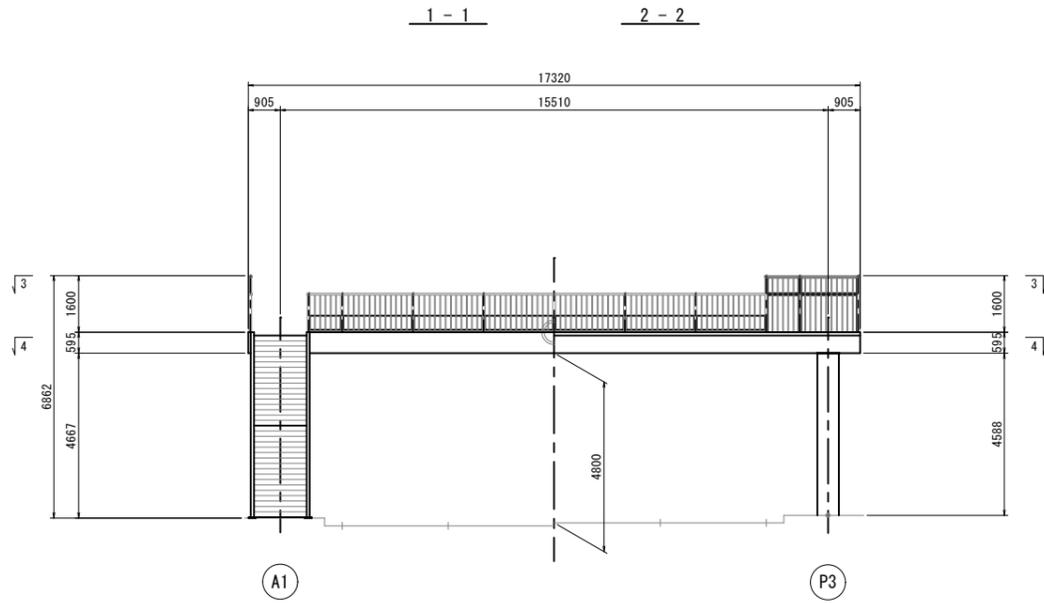


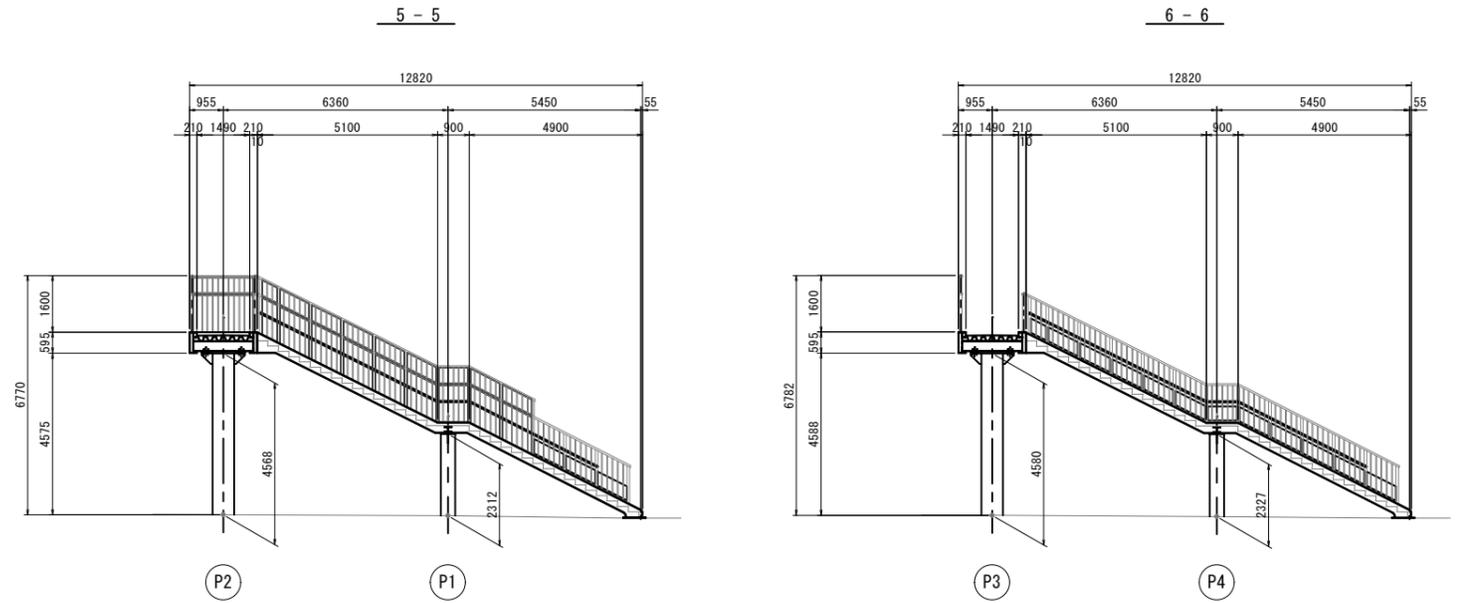
工事名	末武横断歩道橋補修工事
図面名	位置図
作成年月日	令和7年5月
	図面番号 1 / 23
備考	当初設計
事業者名	下松市

末武横断歩道橋 現況一般図

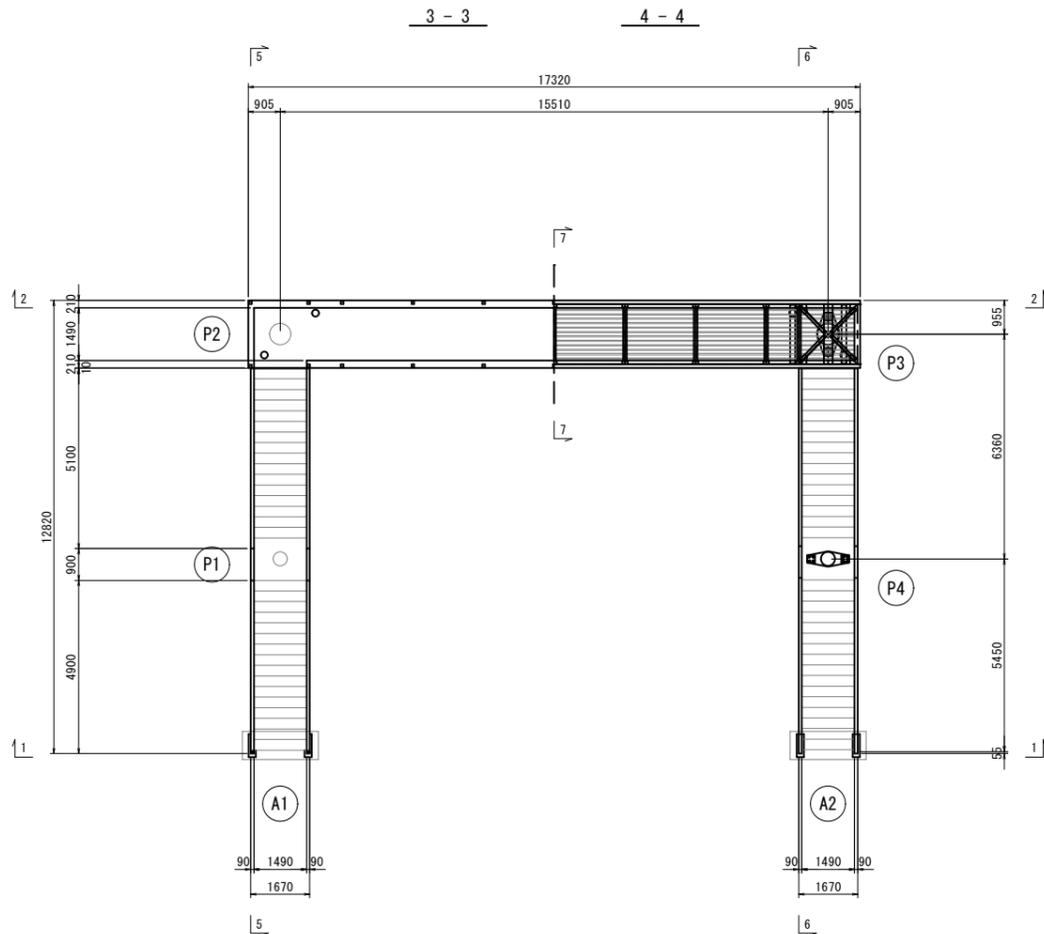
正面図 S=1:100



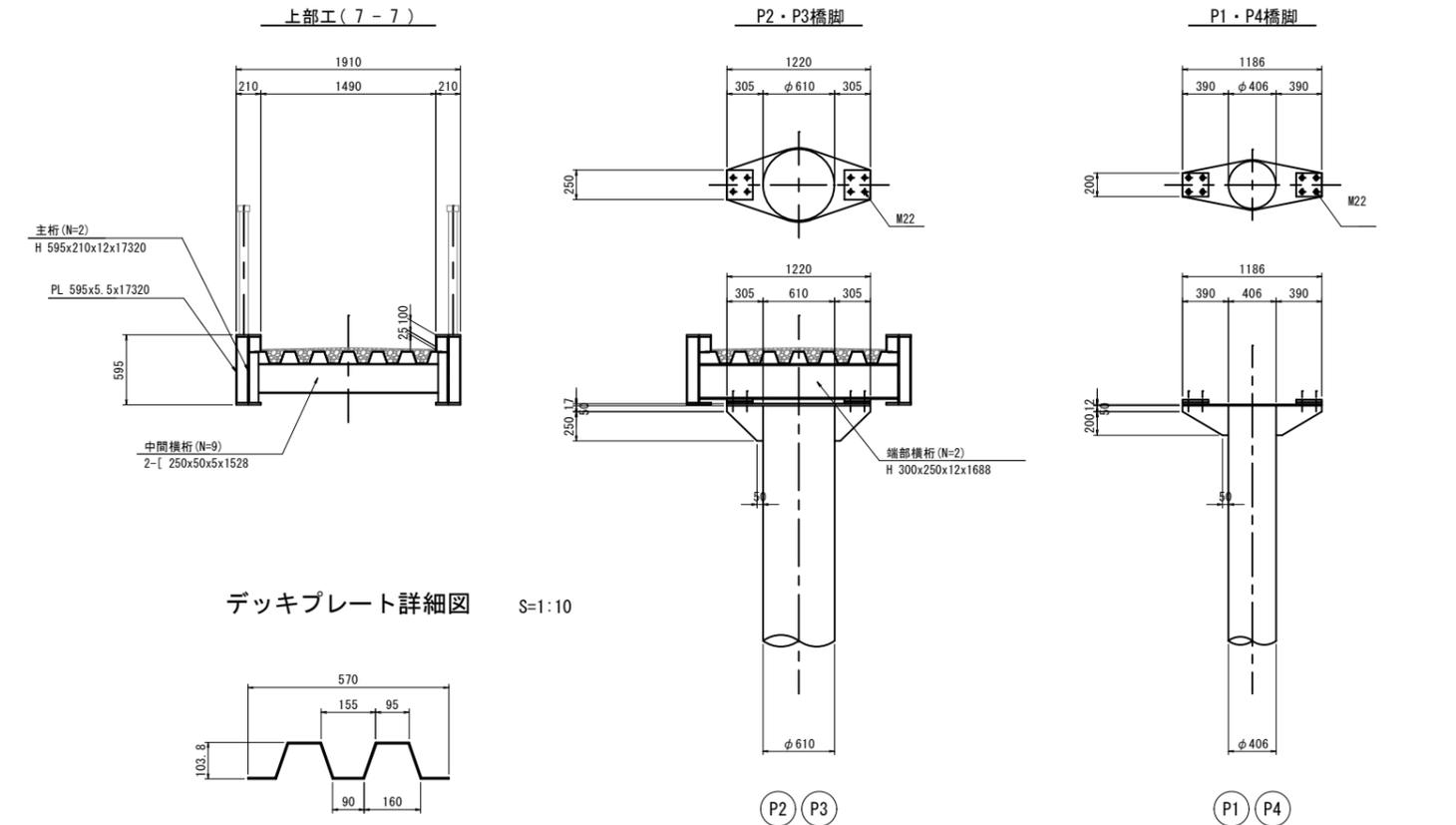
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



断面図 S=1:30



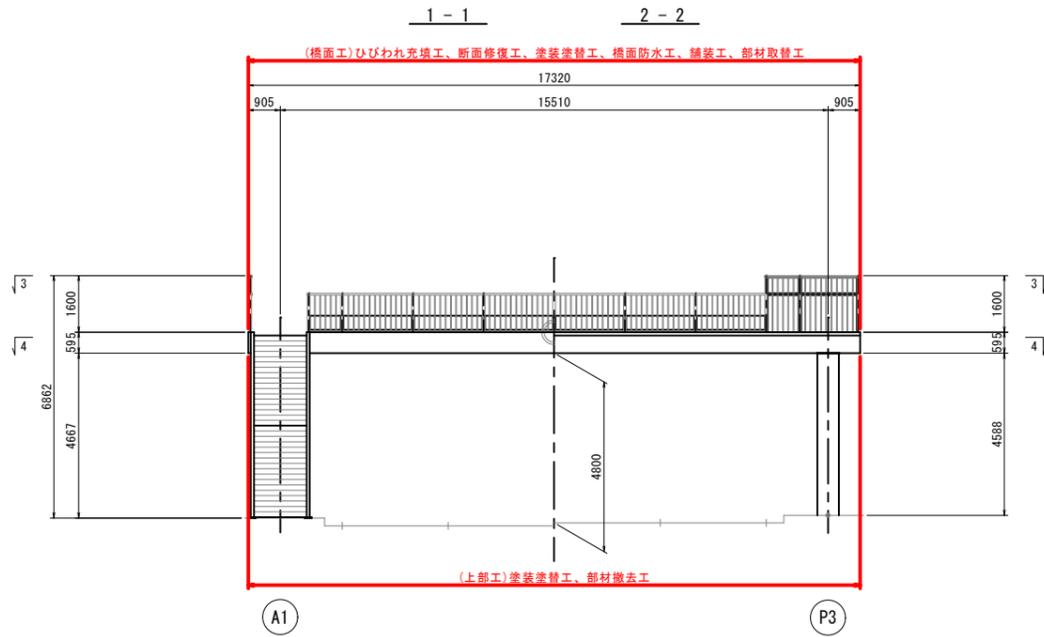
注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

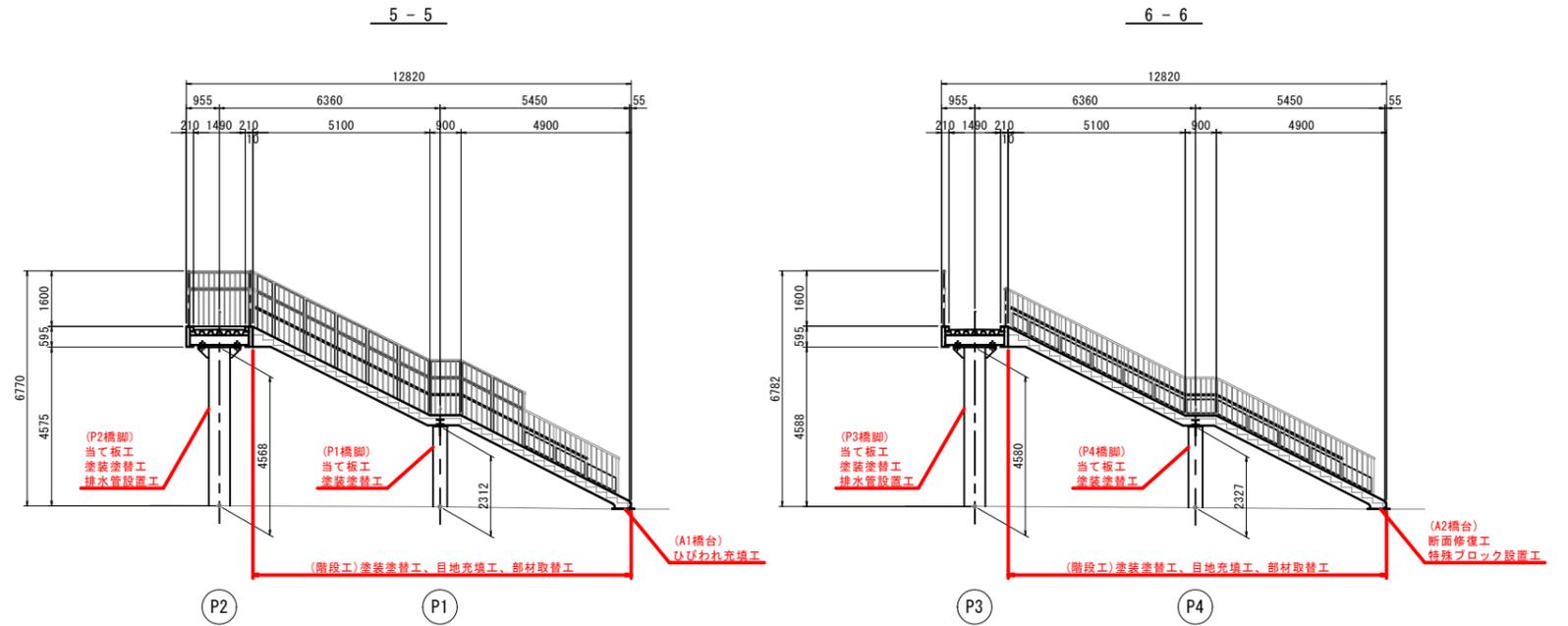
工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 現況一般図		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮尺	図示	図面番号	2 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

末武横断歩道橋 補修一般図

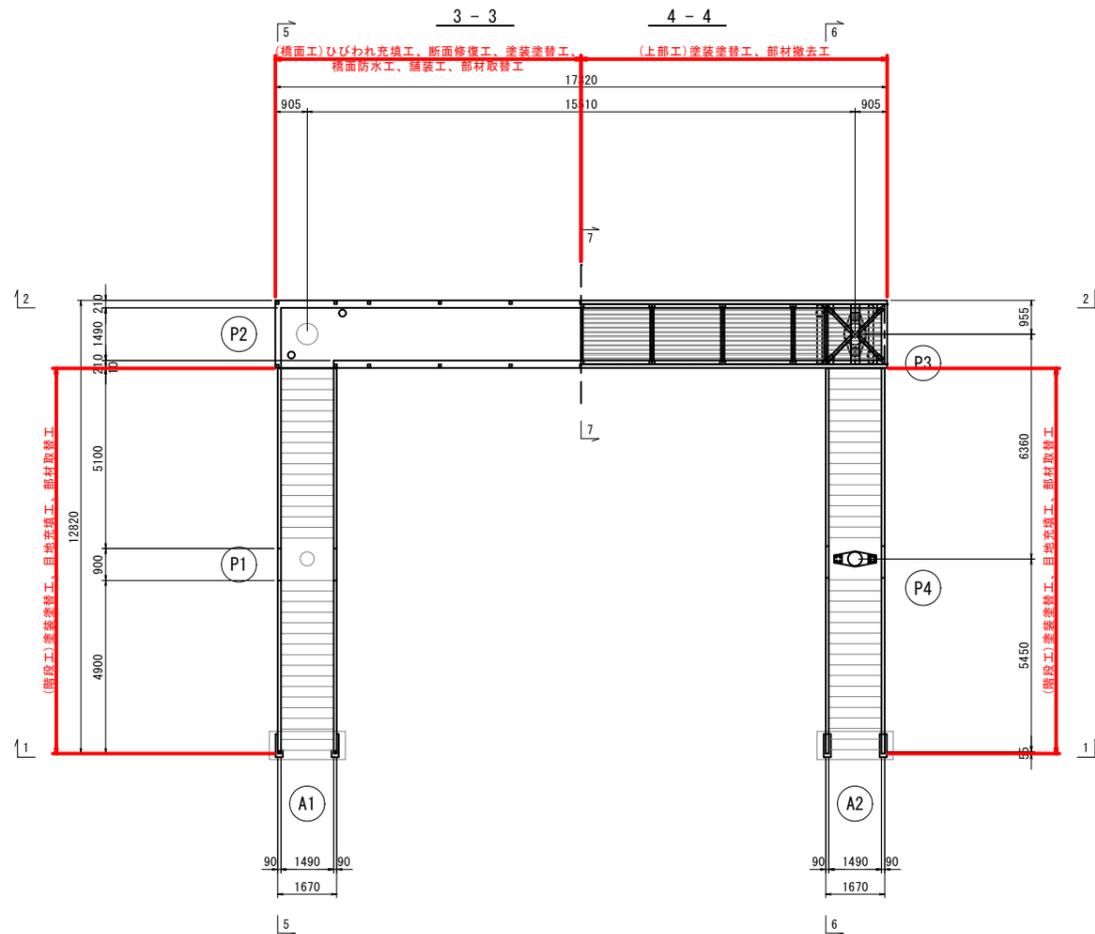
正面図 S=1:100



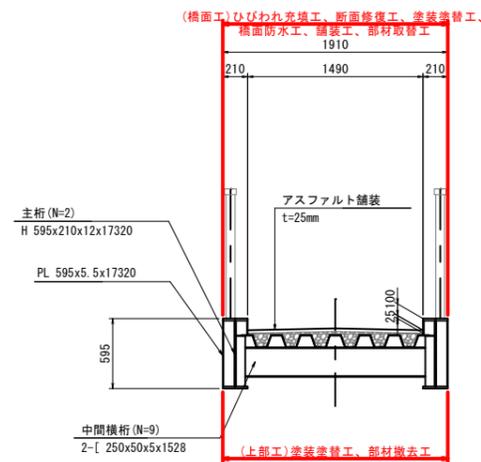
側面図 S=1:100



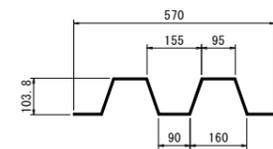
平面図 S=1:100



上部工(7-7)



デッキプレート詳細図 S=1:10



補修項目一覧表

番号	補修項目	仕様	備考
①	塗装塗替工	循環式プラスト工法 Rc-1 塗装系	橋面工、上部工、下部工、階段工
②	ひびわれ充填工	シーリング材	橋面工、下部工
③	断面修復工	左官工法(ポリマーセメントモルタル)	橋面工、下部工
④	当て板工	UVPPS工法同等品以上	下部工
⑤	橋面防水工	塗膜系	橋面工
⑥	舗装工	アスファルト舗装	橋面工
⑦	部材取替工	合成樹脂板	橋面工、階段工
⑧	特殊ブロック設置工	視覚障害者誘導用ブロック	下部工
⑨	目地充填工	ポリブタジエン系	階段工
⑩	排水管設置工	VP管	下部工
⑪	部材撤去工	-	上部工

注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 補修一般図		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮尺	図示	図面番号	3 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

末武横断歩道橋 橋面工補修図 (その1) S=1:30

<ひびわれ充填工、断面修復工>

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ充填工	
断面修復工	

橋面平面図



ひびわれ充填工 数量表

測点	寸法 (m)	
	L (m)	W (mm)
J1	1.20	-
J2	1.40	-
J3	1.40	-
J4	2.20	-
合計	6.20	m

断面修復工 数量表

測点	寸法	面積 (m ²)
D1	0.40 × 0.10	0.04
D2	0.30 × 0.20	0.06
D3	0.70 × 0.20	0.14
合計		0.24 m ²

注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 橋面工補修図 (その1)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	S=1:30	図面番号	4 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

末武横断歩道橋 橋面工補修図 (その2)

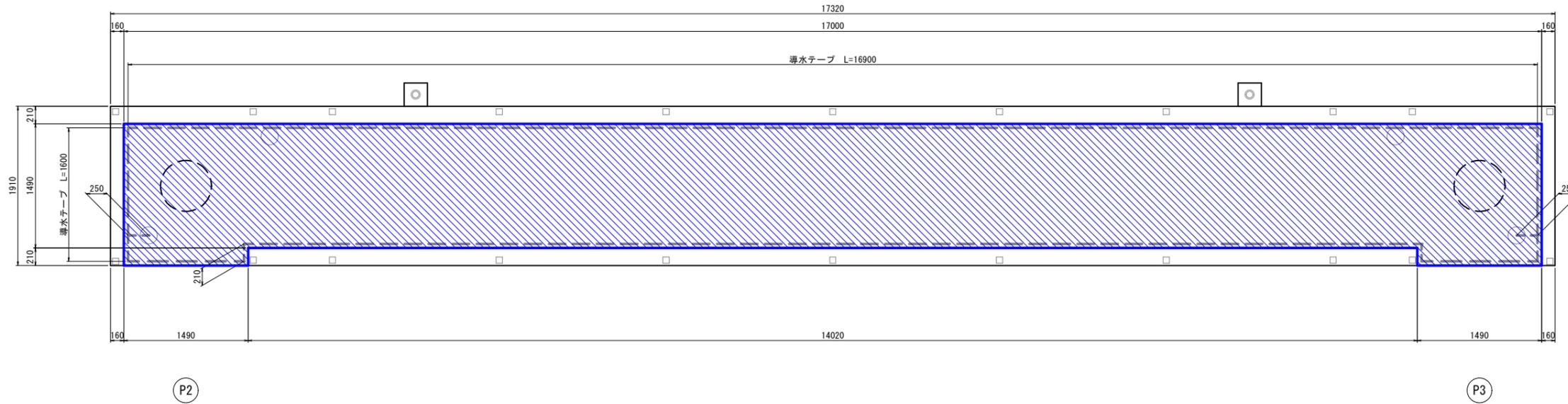
<橋面防水工、舗装工>

凡 例

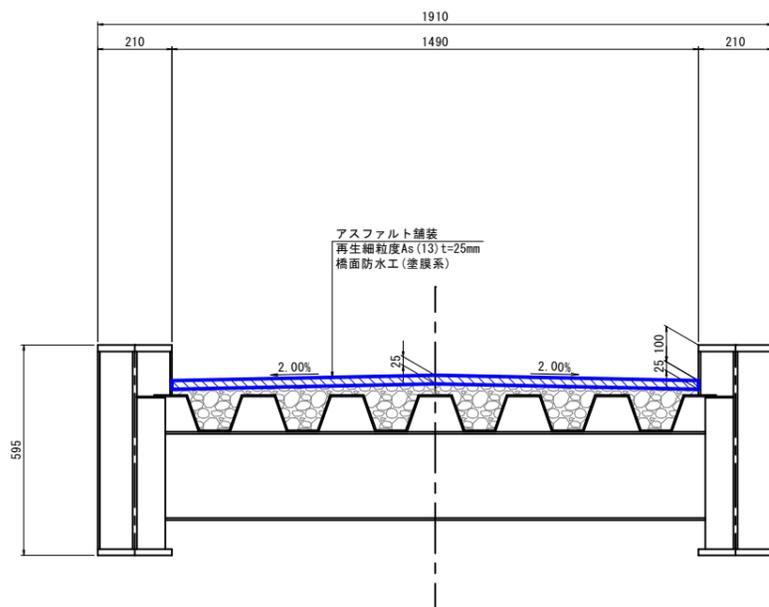
補修の種類	図面表示
橋面防水工、舗装工	

施工面積A=25.6m²

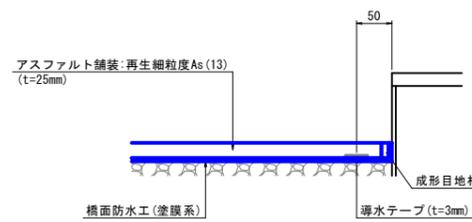
橋面平面図 S=1:30



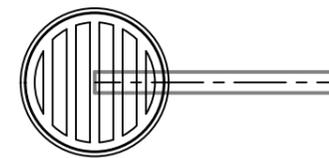
断面図 S=1:10



舗装工詳細図 S=1:5



導水管設置イメージ図



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 舗装を撤去する際は、床版に損傷を与えないように、注意して施工すること。
3. 導水管の重ね継手長は5cm以上とする。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 橋面工補修図 (その3)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	5 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

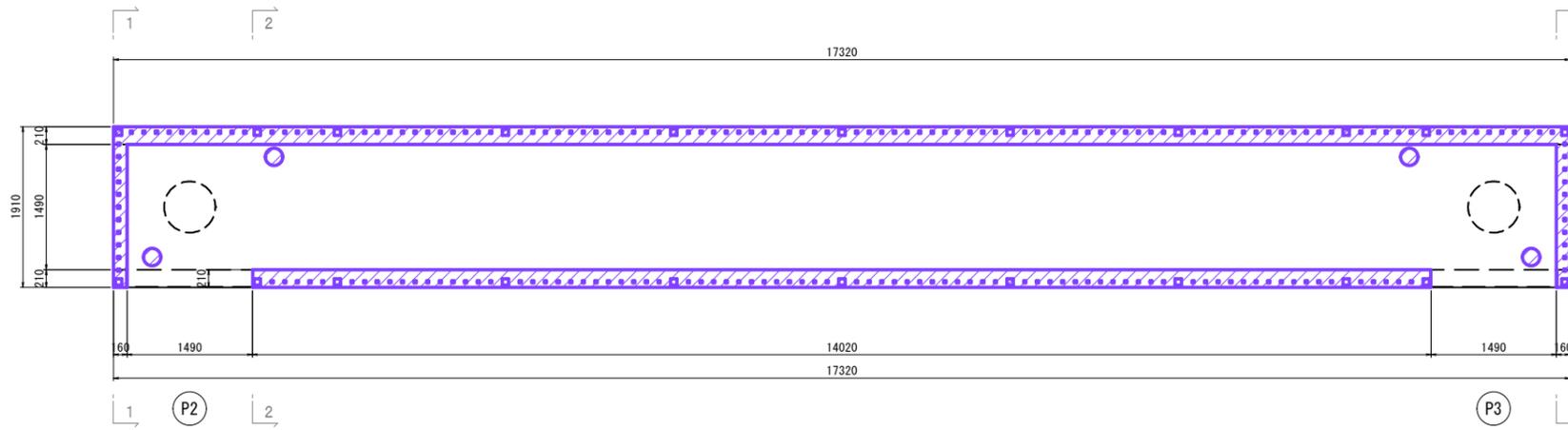
末武横断歩道橋 橋面工補修図 (その3)

<塗装塗替工>

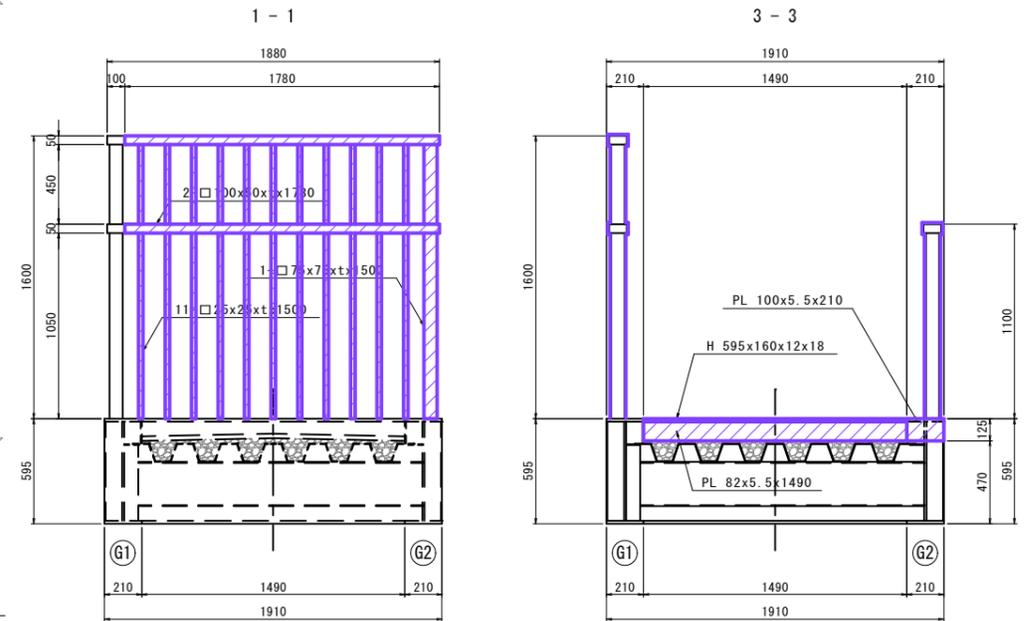
凡例

補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

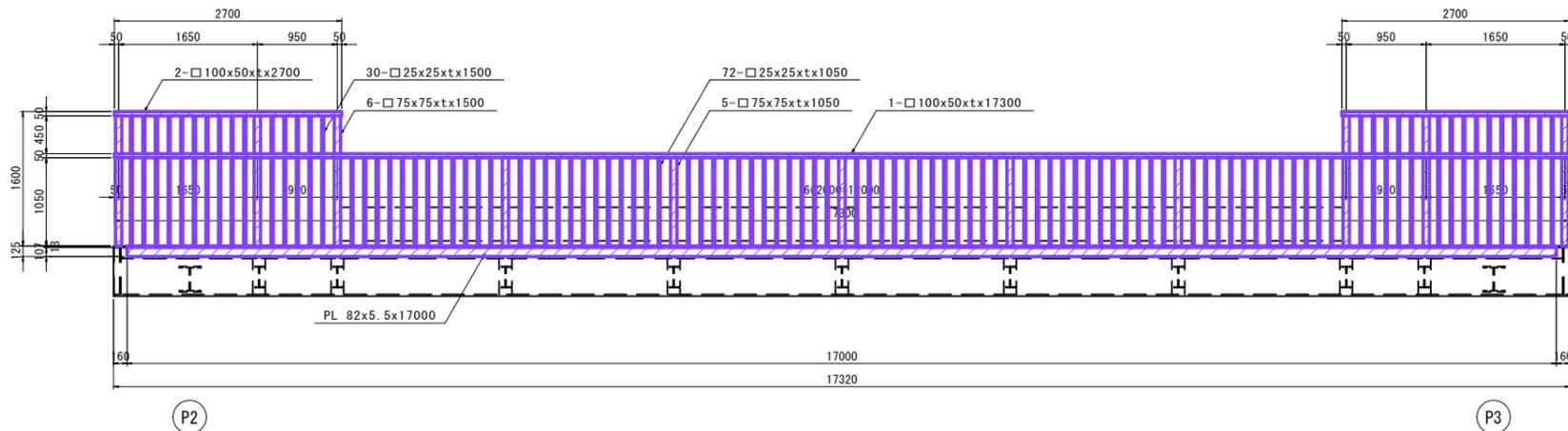
平面図 (橋面) S=1:40



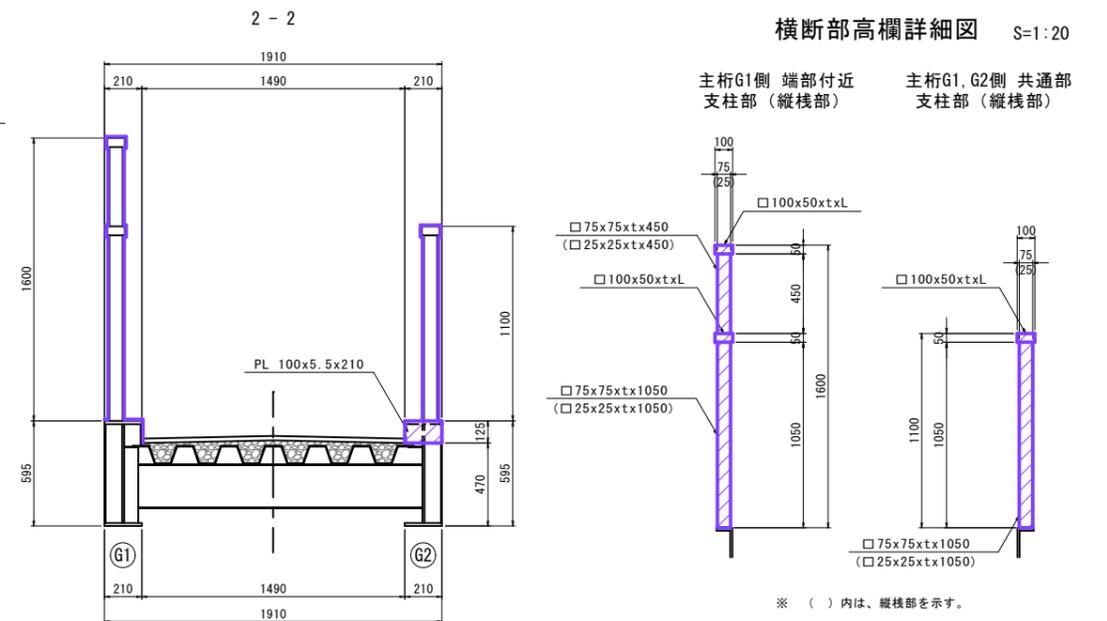
断面図 S=1:20



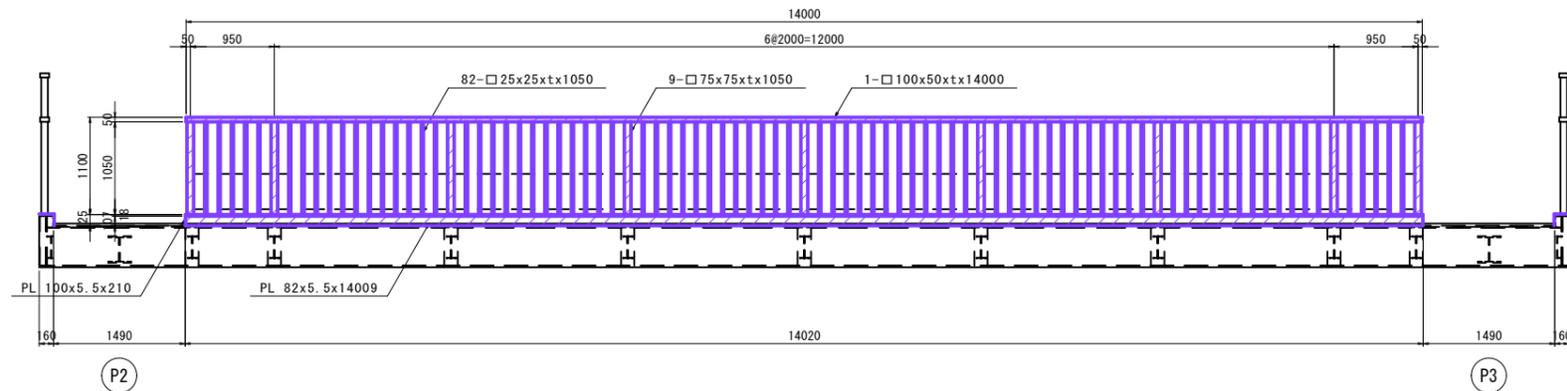
側面図 (主桁G1内側) S=1:40



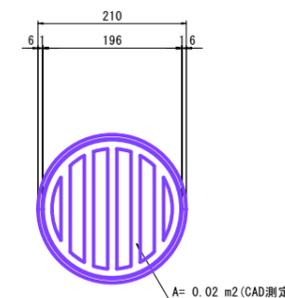
横断部高欄詳細図 S=1:20



側面図 (主桁G2内側) S=1:40



目皿詳細図 S=1:5



注記

1. 施工前には必ず現況寸法測定を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

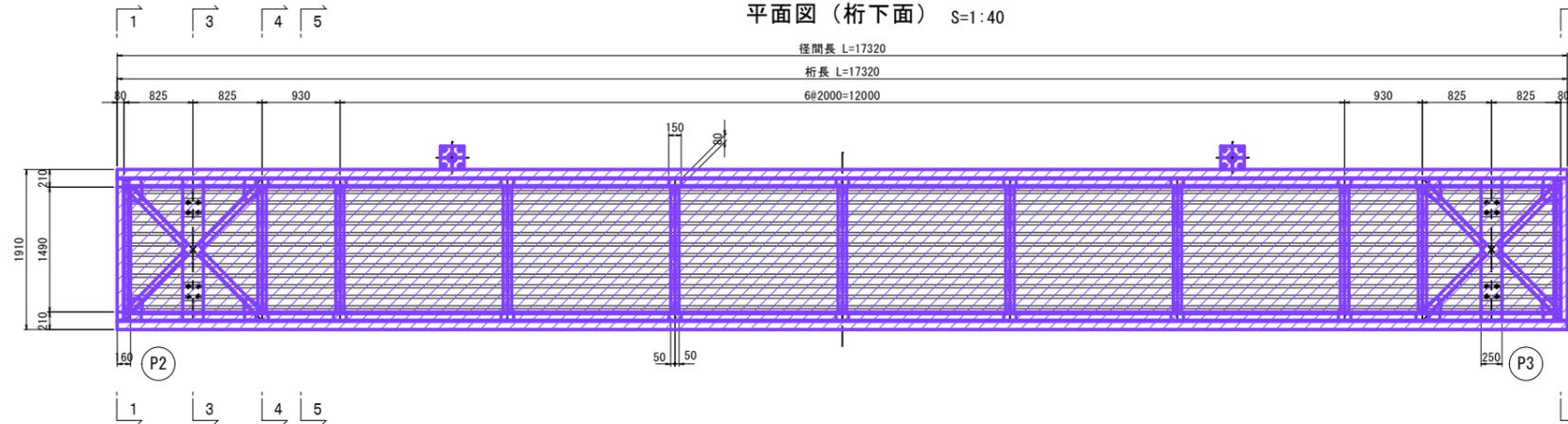
工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 橋面工補修図 (その3)		
作成年月日	令和7年5月		
縮尺	図示	図面番号	6 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

末武横断歩道橋 上部工補修図 (その1)

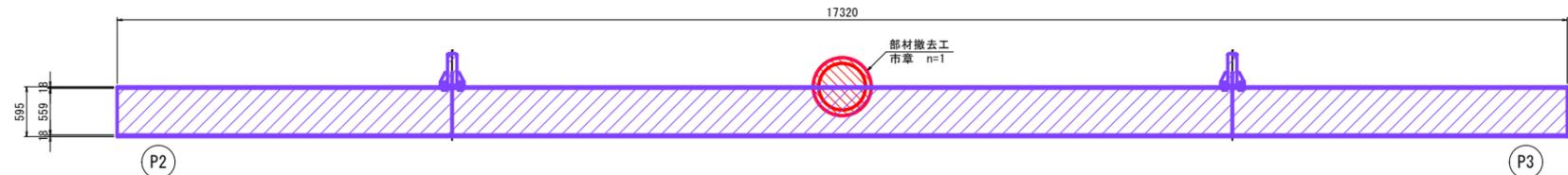
<塗装塗替工 (その1)、部材撤去工>

凡例	
補修の種類	図面表示
塗装塗替工	
部材撤去工	

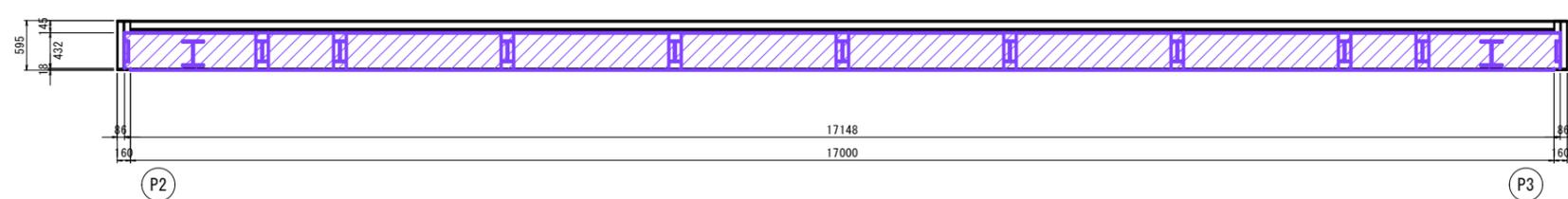
平面図 (桁下面) S=1:40



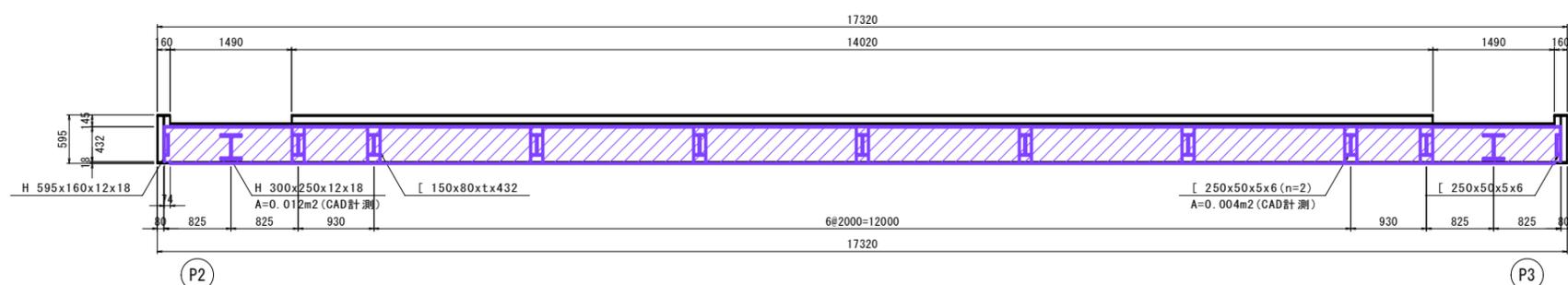
主桁G1側面図 (外側) S=1:40



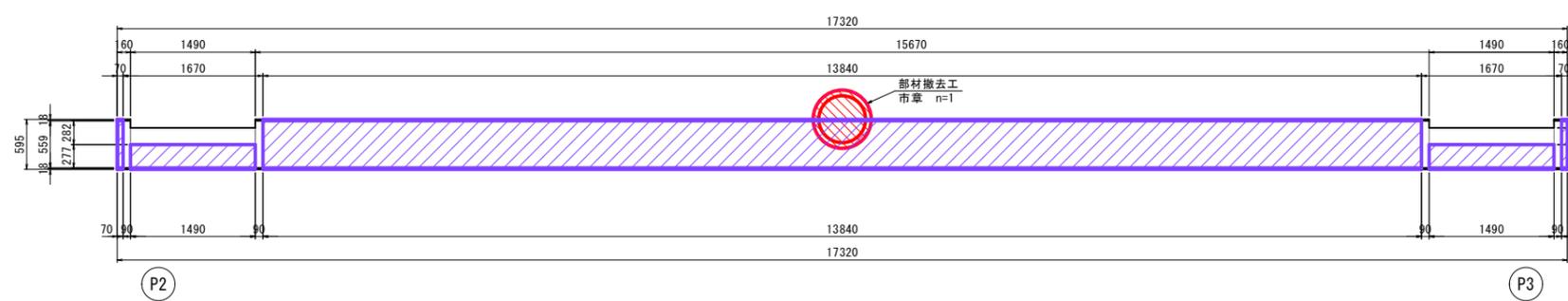
主桁G1側面図 (内側) S=1:40



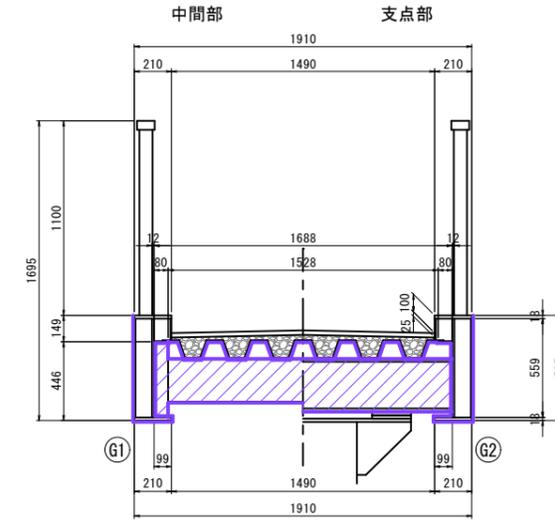
主桁G2側面図 (内側) S=1:40



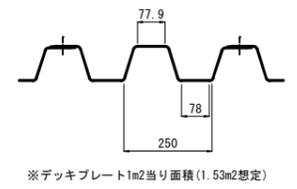
主桁G2側面図 (外側) S=1:40



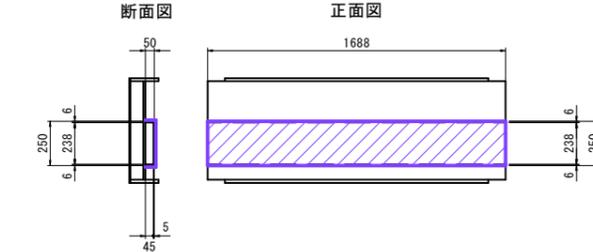
横断部断面図 S=1:20



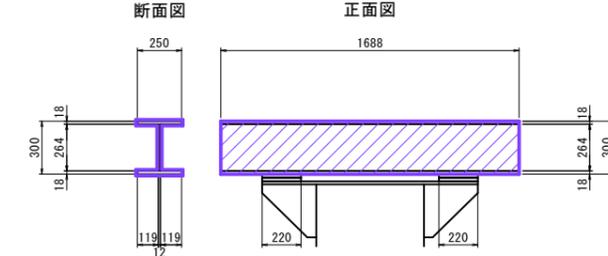
床版詳細図 S=1:10



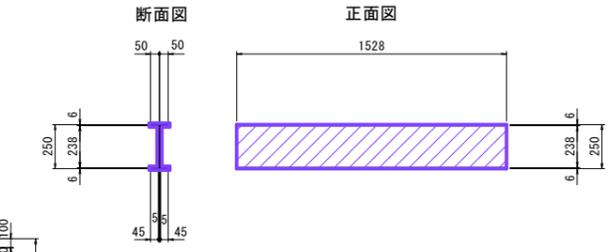
桁端部横桁詳細図 S=1:20



支点横桁詳細図 S=1:20



中間横桁詳細図 S=1:20



注記)
 1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
 2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 上部工補修図 (その1)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮尺	図示	図面番号	8 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

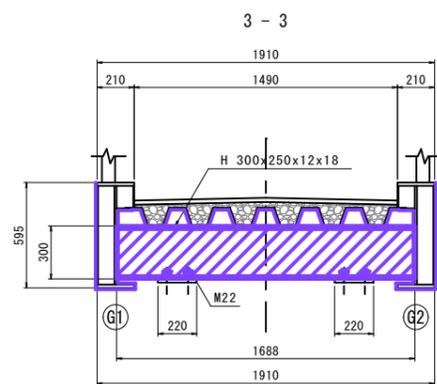
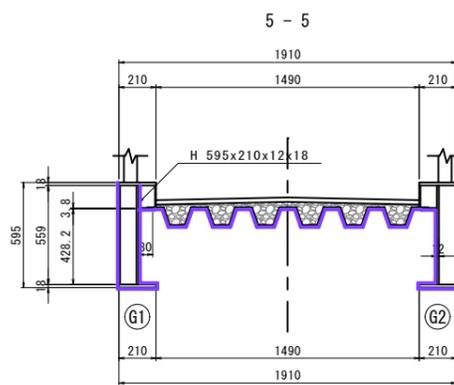
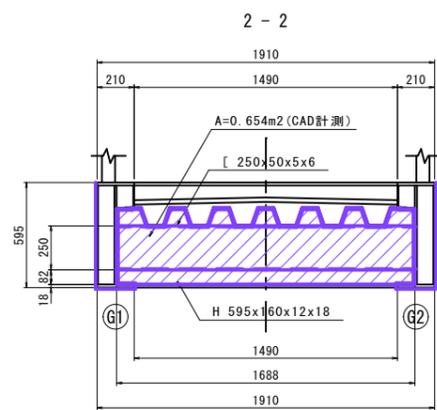
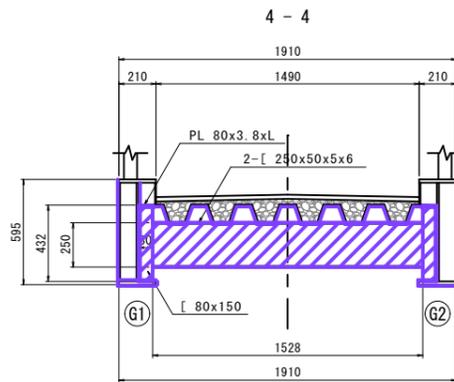
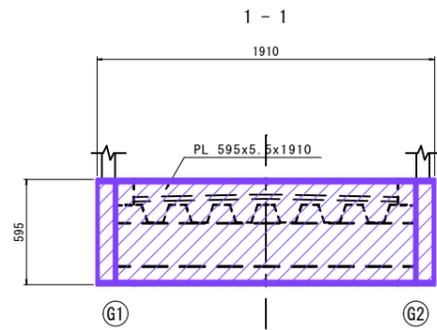
末武横断歩道橋 上部工補修図 (その2)

< 塗装塗替工 (その2) >

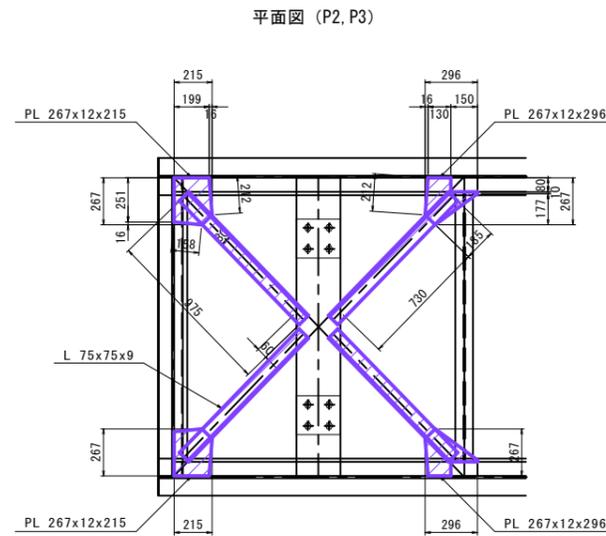
凡 例

補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

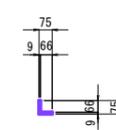
断面図 S=1:20



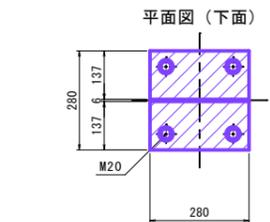
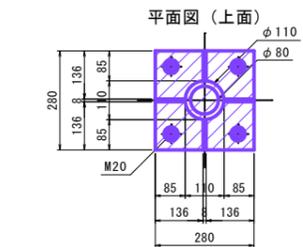
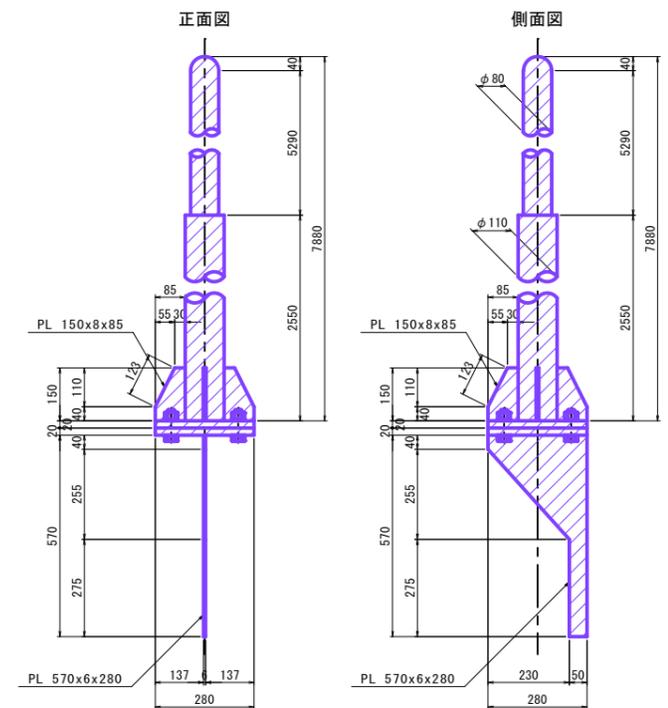
横 構 S=1:20



断面図



照明柱・架台詳細図 S=1:10



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 上部工補修図 (その2)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	9 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

末武横断歩道橋 下部工補修図 (その1)

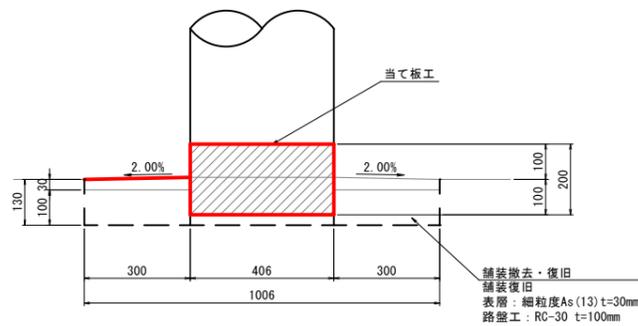
<当て板工>

凡 例

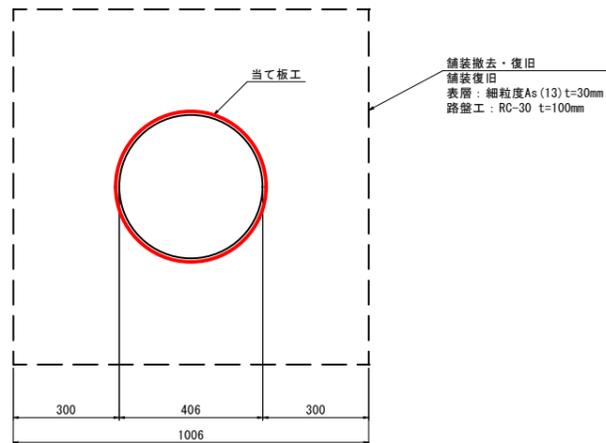
補修の種類	図面表示
当て板工	

P1橋脚, P4橋脚 S=1:10

側面図

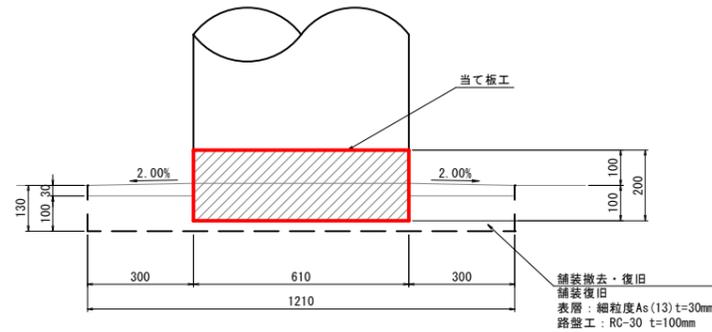


平面図

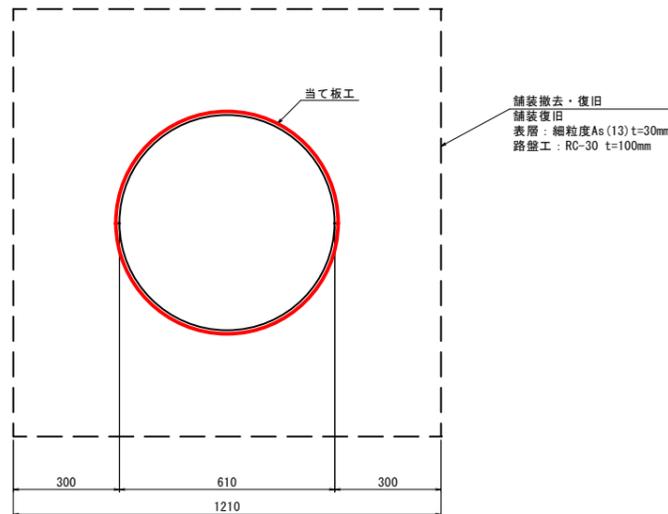


P2橋脚, P3橋脚 S=1:10

側面図

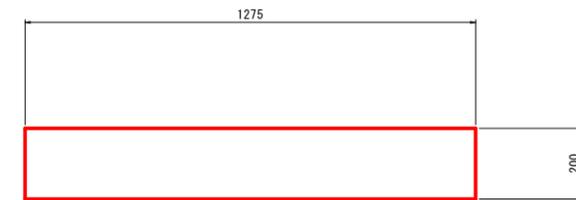


平面図

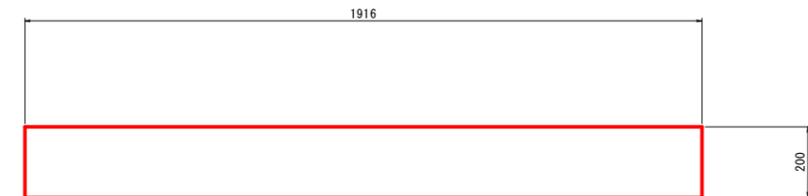


当て板工形状図 S=1:10

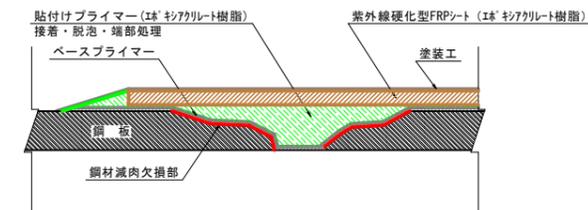
P1橋脚, P4橋脚 (N=2枚/橋当り)



P2橋脚, P3橋脚 (N=2枚/橋当り)



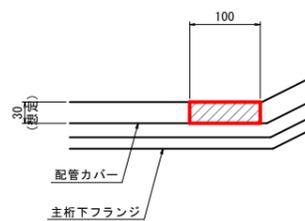
当て板工詳細図



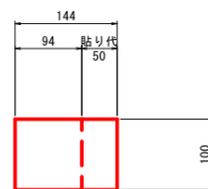
施工手順

- (1) ケレン (2種以上)
- (2) ベースプライマー塗布
- (3) 貼付けプライマー (2液性) 塗布後、シート貼付
- ※脱泡・端部処理: 同時施工
- (4) 紫外線照射 (太陽光含む)
- (5) 塗装

配線カバー (P4橋脚上) S=1:5



配管カバー当て板工形状図 S=1:5



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

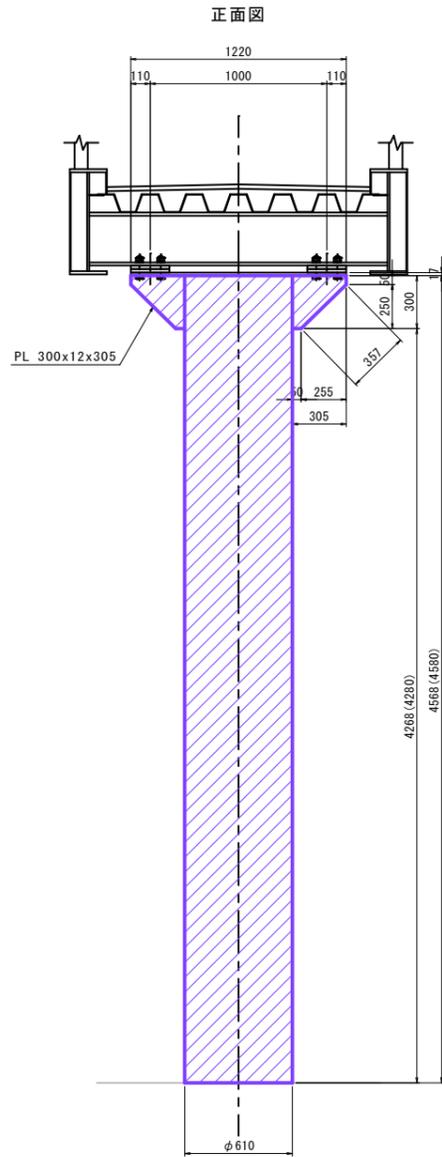
工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 下部工補修図 (その1)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	10 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

末武横断歩道橋 下部工補修図 (その2)

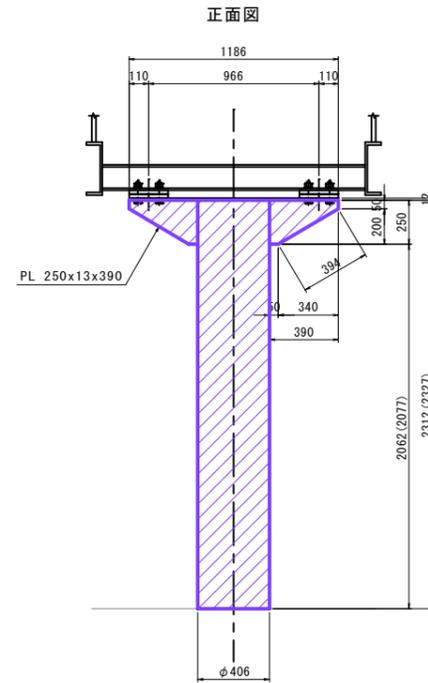
< 塗装塗替工 (その1) >

凡 例	
補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

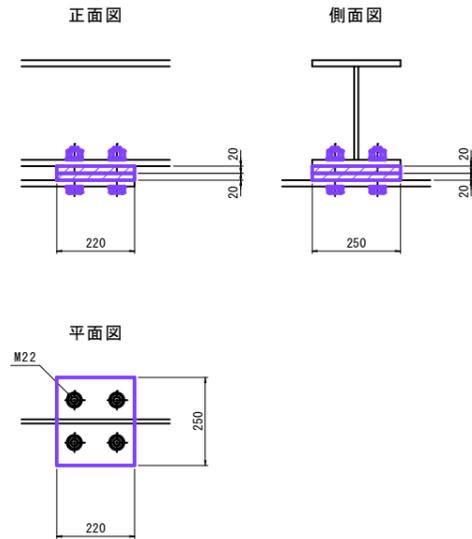
P2 (P3) 橋脚 S=1:20



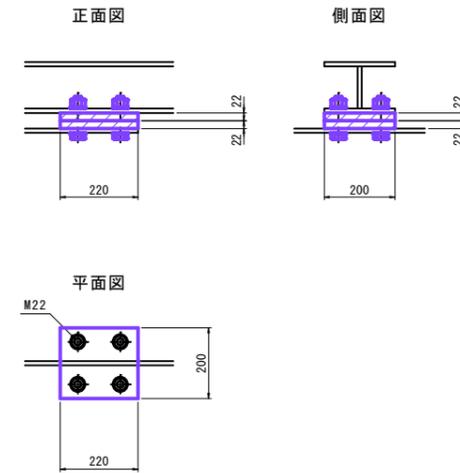
P1 (P4) 橋脚 S=1:20



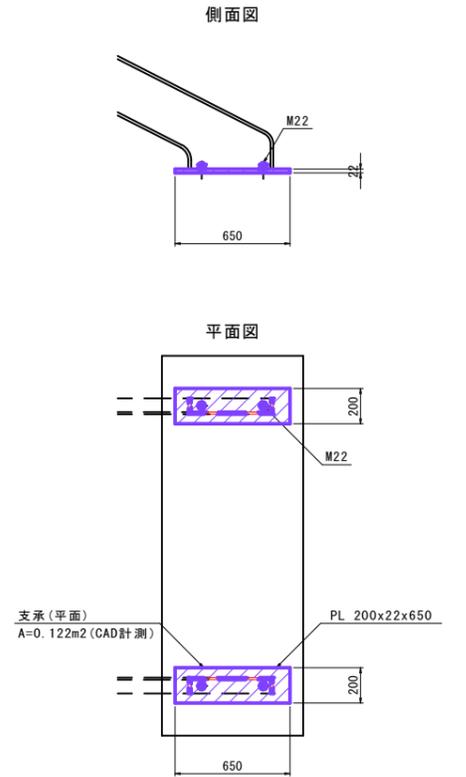
支承 (P2, P3) S=1:10



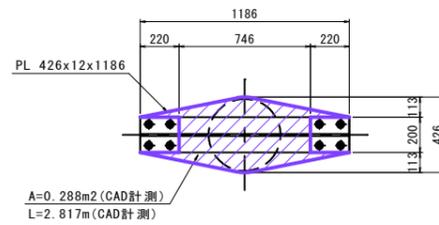
支承 (P1, P4) S=1:10



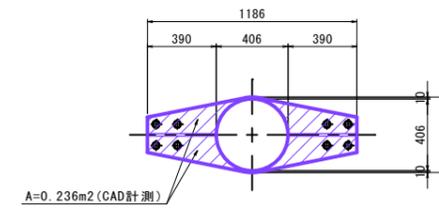
A1, A2 橋台 S=1:20



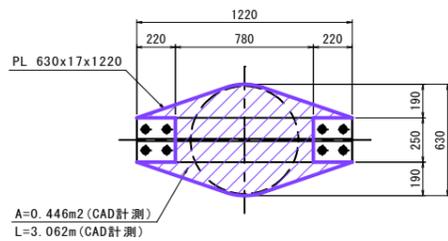
平面図 S=1:20 (上面)



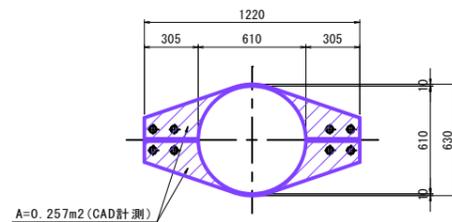
平面図 S=1:20 (下面)



平面図 S=1:20 (上面)



平面図 S=1:20 (下面)



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 下部工補修図 (その2)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	11 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

末武横断歩道橋 下部工補修図 (その3)

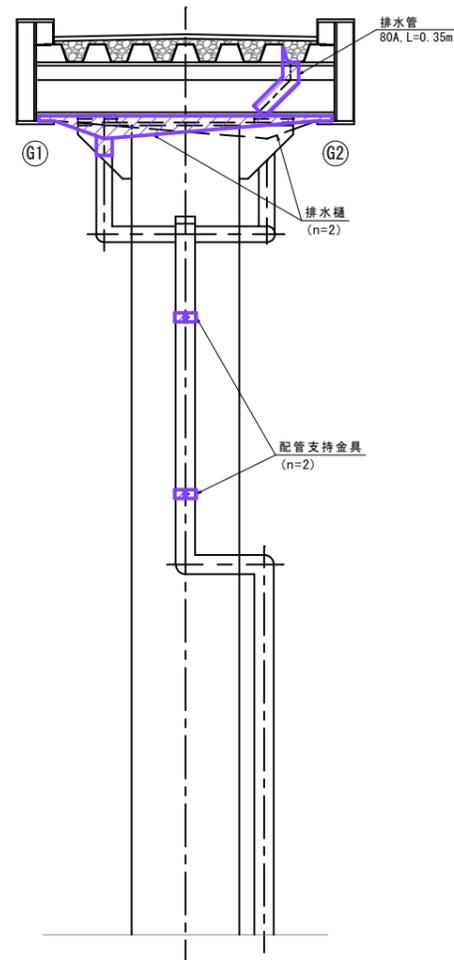
< 塗装塗替工 (その2) >

凡 例

補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

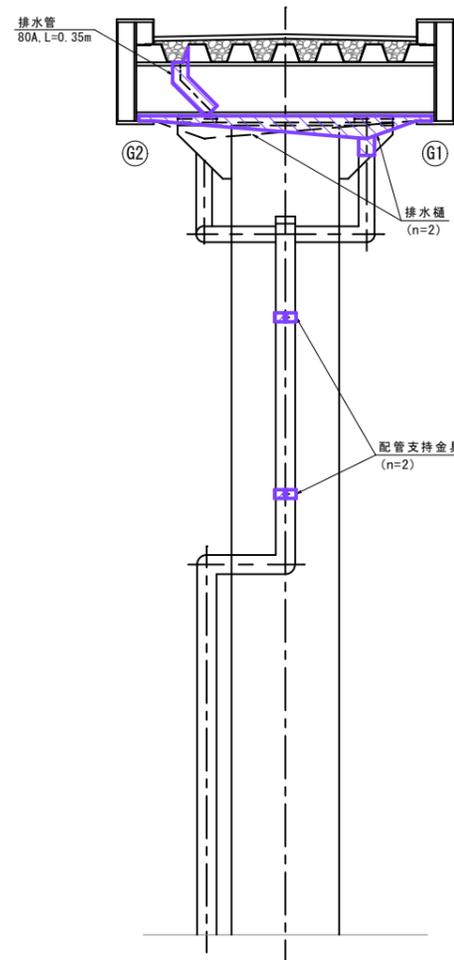
P2橋脚 S=1:20

正面図



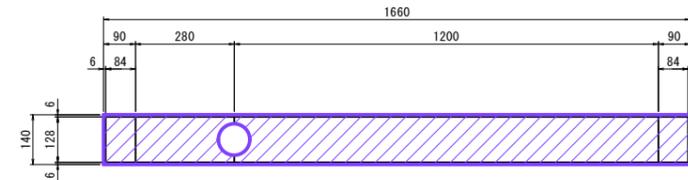
P3橋脚 S=1:20

正面図

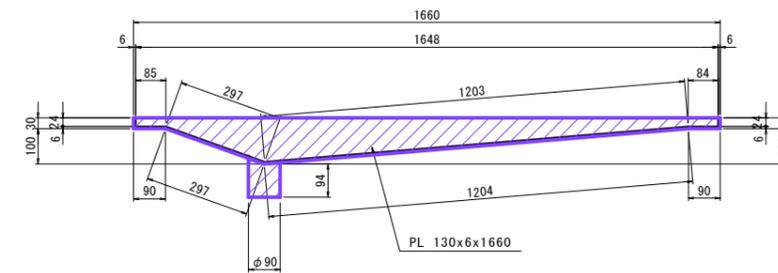


排水樋 S=1:10

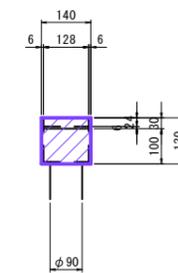
平面図



正面図

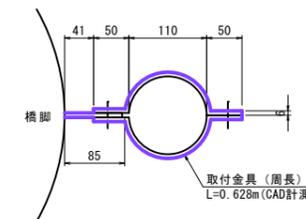


側面図

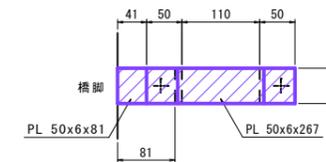


配管支持金具 S=1:5

平面図



側面図



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

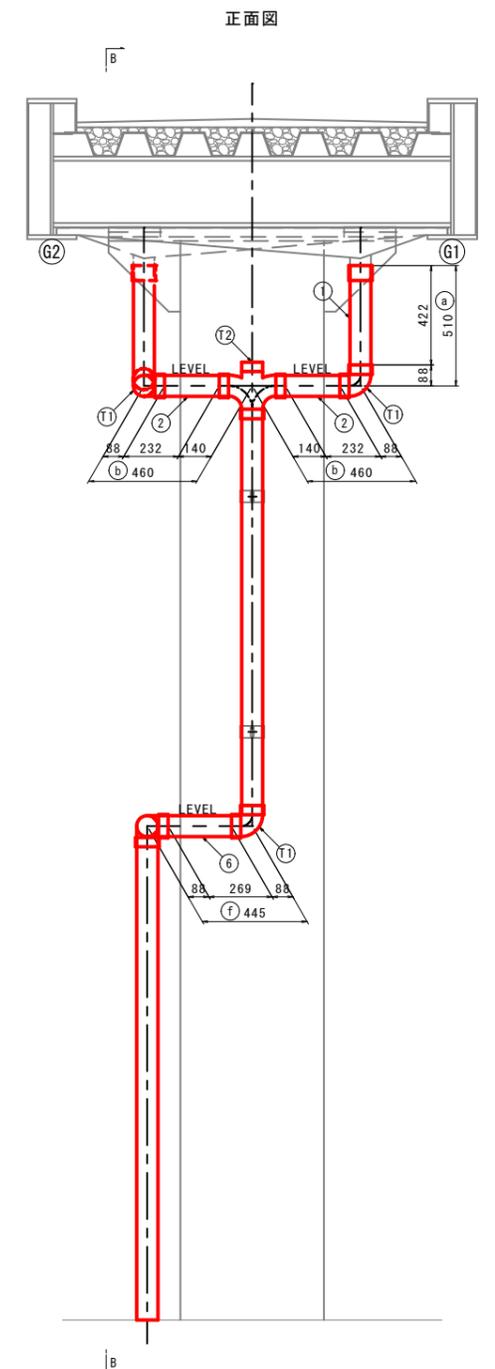
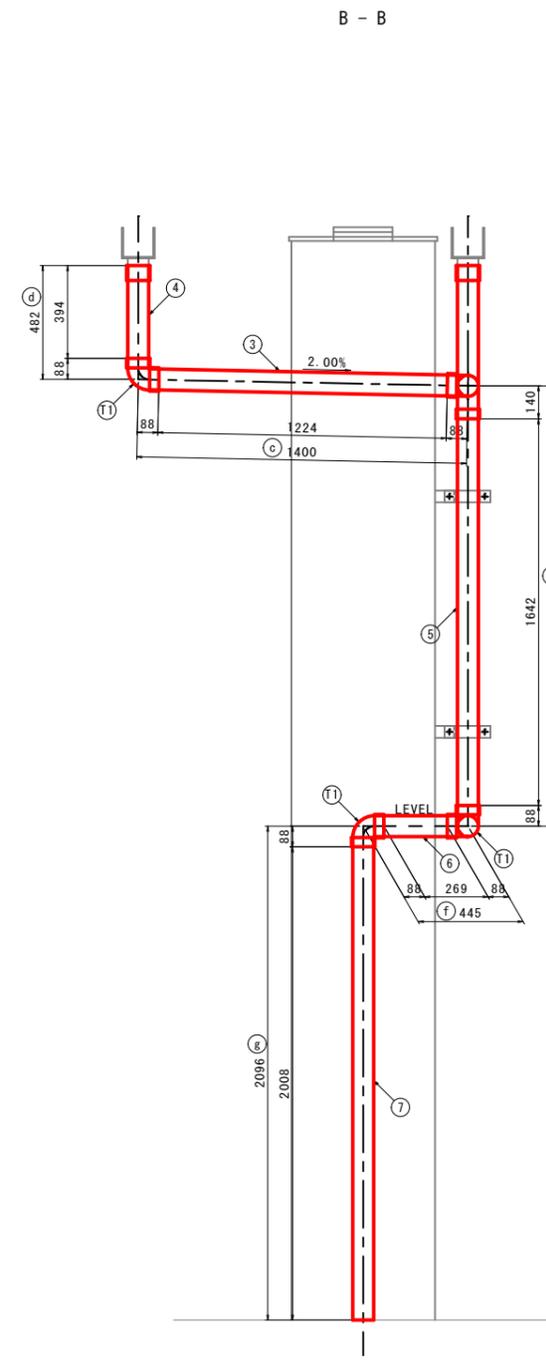
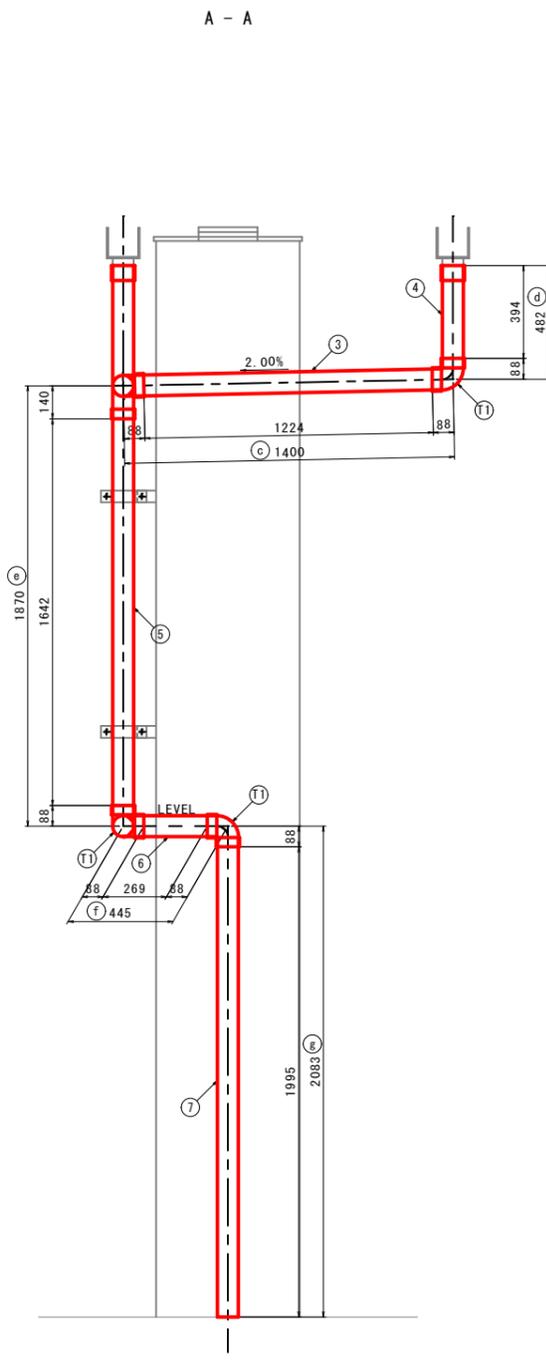
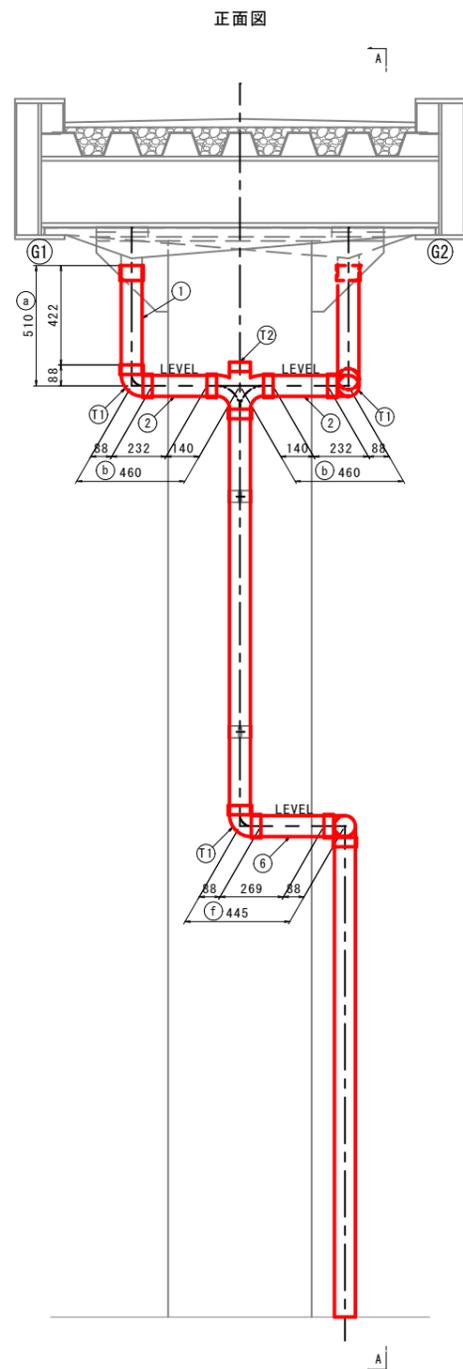
工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 下部工補修図 (その3)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	12 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

末武横断歩道橋 下部工補修図 (その4) S=1:15

<排水管撤去工>

P2橋脚

P3橋脚



P2橋脚 排水管撤去数量

撤去流水延長

$$L = a + bx2 + c + d + e + fx2 + g$$

$$= 0.510 + 0.460 \times 2 + 1.400 + 0.482 + 1.870 + 0.445 \times 2 + 2.083$$

$$= 8.155 \text{ m}$$

撤去直管

- ① 1-VP 75A×465
- ② 2-VP 75A×315
- ③ 1-VP 75A×1305
- ④ 1-VP 75A×435
- ⑤ 1-VP 75A×1725
- ⑥ 2-VP 75A×350
- ⑦ 1-VP 75A×2050

撤去加工管

- 6- (T1)
- 1- (T2)

再利用樋 2組
再利用支持金具 2組

P3橋脚 排水管撤去数量

撤去流水延長

$$L = a + bx2 + c + d + e + fx2 + g$$

$$= 0.510 + 0.460 \times 2 + 1.400 + 0.482 + 1.870 + 0.445 \times 2 + 2.096$$

$$= 8.168 \text{ m}$$

撤去直管

- ① 1-VP 75A×465
- ② 2-VP 75A×315
- ③ 1-VP 75A×1305
- ④ 1-VP 75A×435
- ⑤ 1-VP 75A×1725
- ⑥ 2-VP 75A×350
- ⑦ 1-VP 75A×2050

撤去加工管

- 6- (T1)
- 1- (T2)

再利用樋 2組
再利用支持金具 2組

注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認のち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 下部工補修図 (その4)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮尺	S=1:15	図面番号	13 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

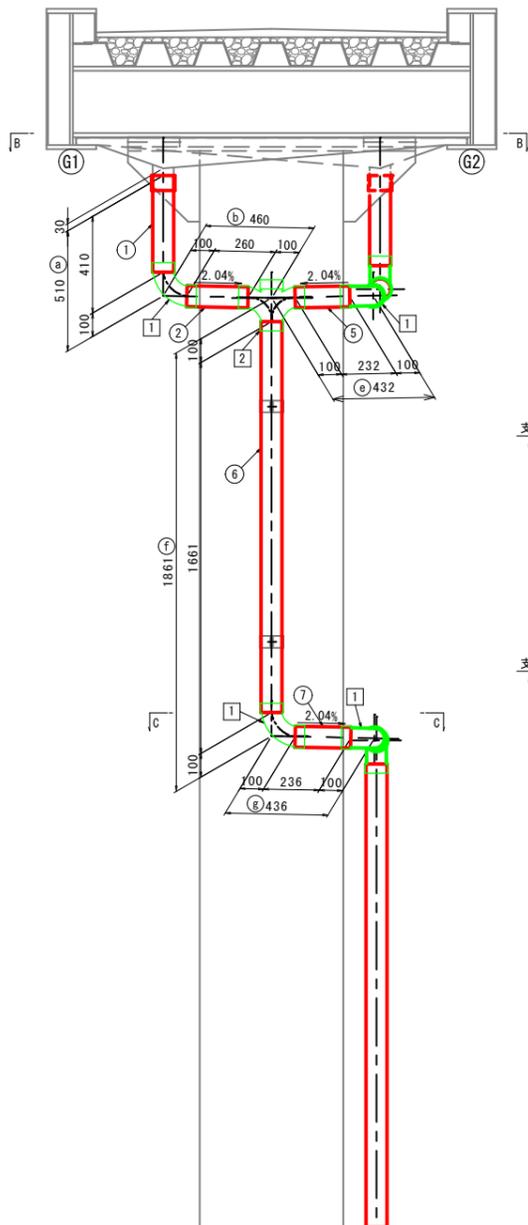
末武横断歩道橋 下部工補修図 (その5) S=1:15

<排水管改良工>

P2橋脚

正面図

A-A断面



P2橋脚 排水管数量

流水延長
 $L=a+b+c+d+e+f+g+h+i$
 $=0.510+0.460+0.482+1.400+0.432+1.861+0.436+0.445+2.065$
 $=8.091 \text{ m}$

再利用樋 2組
 再利用支持金具 2組

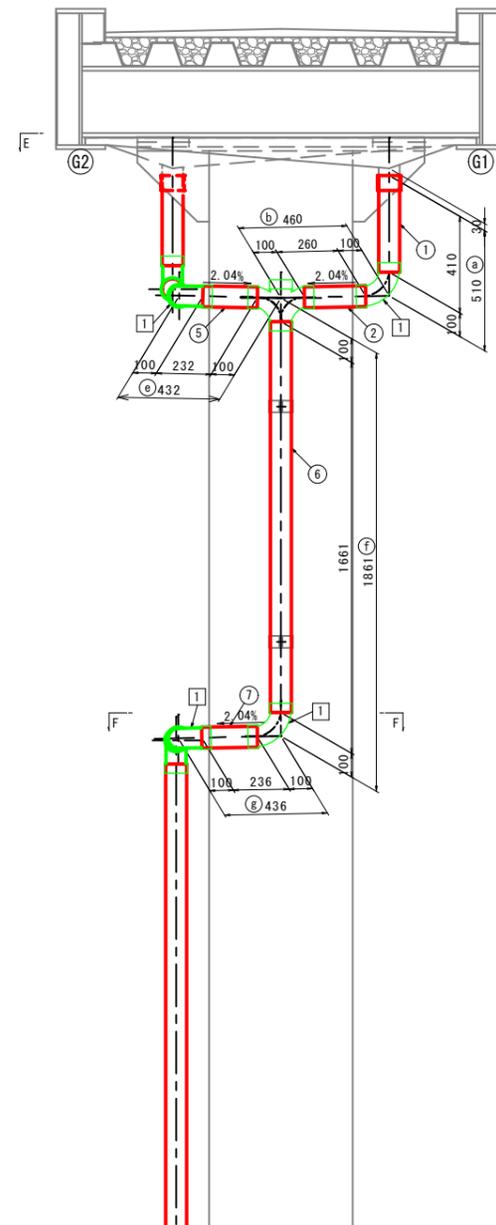
- 直管
- ① 1-VP:TSスリーブ管 75Ax410
 - ② 1-VP 75Ax260
 - ③ 1-VP:TSスリーブ管 75Ax382
 - ④ 1-VP 75Ax1200
 - ⑤ 1-VP 75Ax232
 - ⑥ 1-VP 75Ax1661
 - ⑦ 1-VP 75Ax236
 - ⑧ 1-VP 75Ax245
 - ⑨ 1-VP 75Ax1965

- 継手
- ① 6-90° 大曲エルボ 75A用
 - ② 1-90° 大曲両Y 75A用

P3橋脚

正面図

D-D断面



P3橋脚 排水管数量

流水延長
 $L=a+b+c+d+e+f+g+h+i$
 $=0.510+0.460+0.482+1.400+0.431+1.861+0.436+0.445+2.078$
 $=8.103 \text{ m}$

再利用樋 2組
 再利用支持金具 2組

- 直管
- ① 1-VP:TSスリーブ管 75Ax410
 - ② 1-VP 75Ax260
 - ③ 1-VP:TSスリーブ管 75Ax382
 - ④ 1-VP 75Ax1200
 - ⑤ 1-VP 75Ax232
 - ⑥ 1-VP 75Ax1661
 - ⑦ 1-VP 75Ax236
 - ⑧ 1-VP 75Ax245
 - ⑨ 1-VP 75Ax1978

- 継手
- ① 6-90° 大曲エルボ 75A用
 - ② 1-90° 大曲両Y 75A用

注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認のち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 下部工補修図 (その5)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮尺	S=1:15	図面番号	14 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

末武横断歩道橋 下部工補修図 (その6) S=1:10

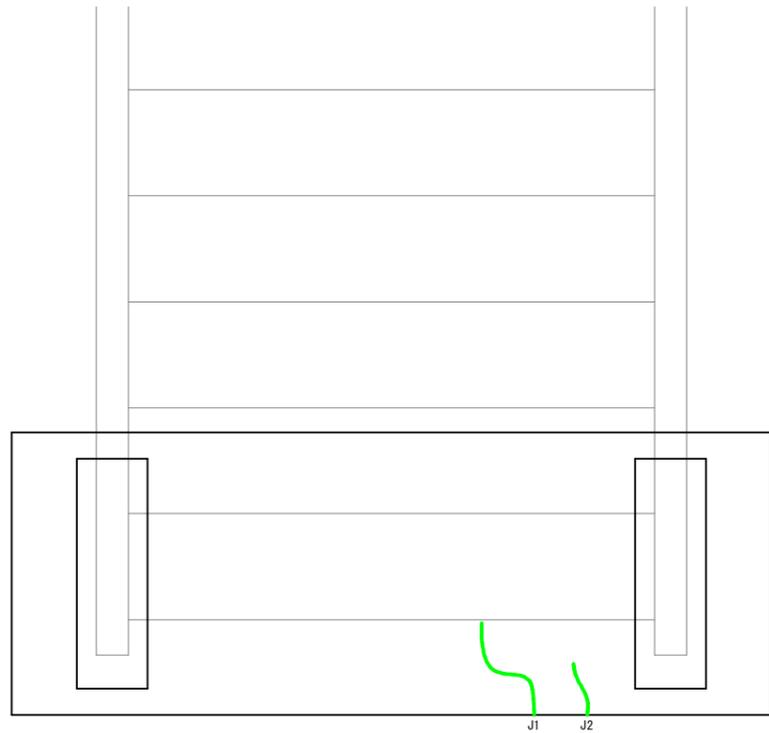
<ひびわれ充填工、断面修復工、特殊ブロック設置工>

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ充填工	
断面修復工	

A1橋台
平面図

↑
周南市方面



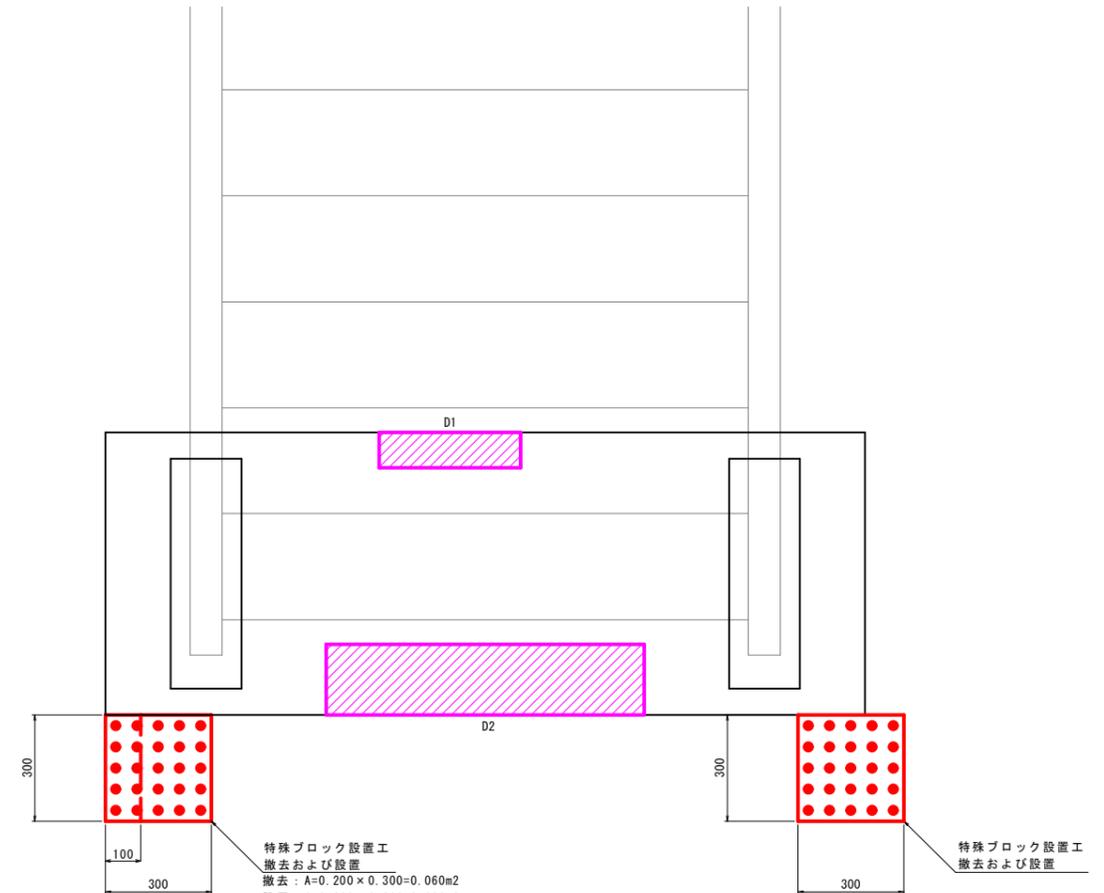
↓
光市方面

ひびわれ充填工 数量表

測点	寸法 (m)	
	L (m)	W (mm)
J1	0.30	5.00
J1	0.15	0.50
合計	0.45	m

A2橋台
平面図

↑
周南市方面



↓
光市方面

断面修復工 数量表

測点	寸法	面積 (m ²)
D1	0.40 × 0.10	0.04
D2	0.90 × 0.20	0.18
合計		0.22 m ²

注記)

1. 施工前には必ず現状寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 下部工補修図 (その6)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	S=1:10	図面番号	15 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

末武横断歩道橋 階段工補修図 (その1) S=1:50

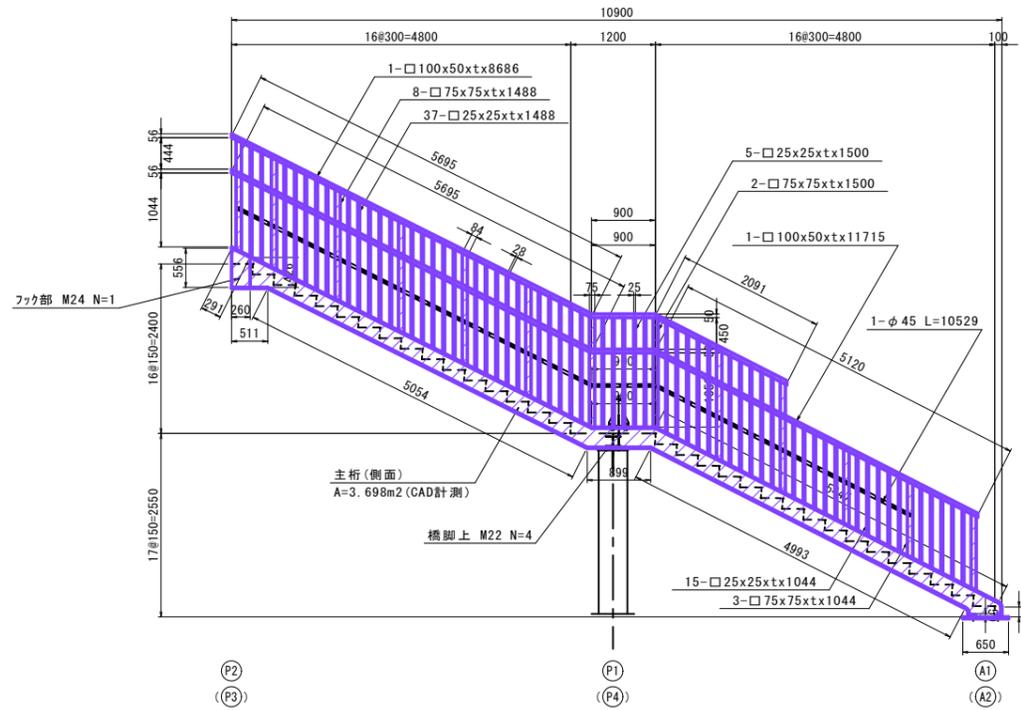
< 塗装塗替工 (その1) >

凡 例

補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

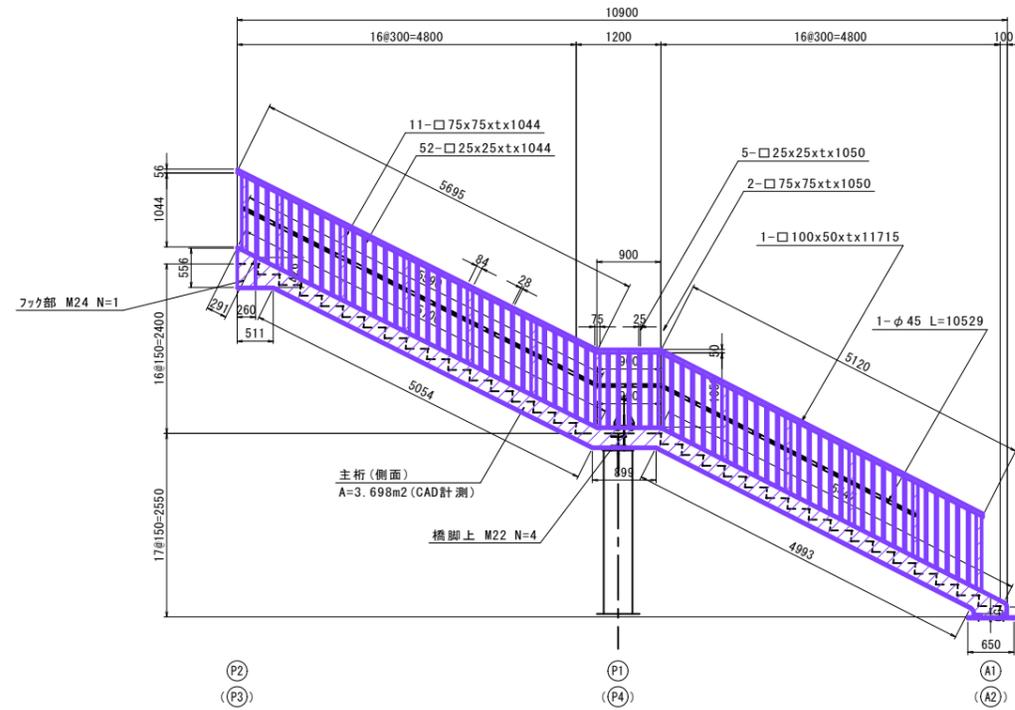
側面図

1-1:A1-P2 (2-2:P3-A2)



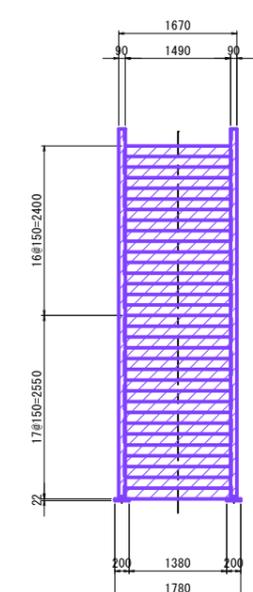
側面図

2-2:A1-P2 (1-1:P3-A2)

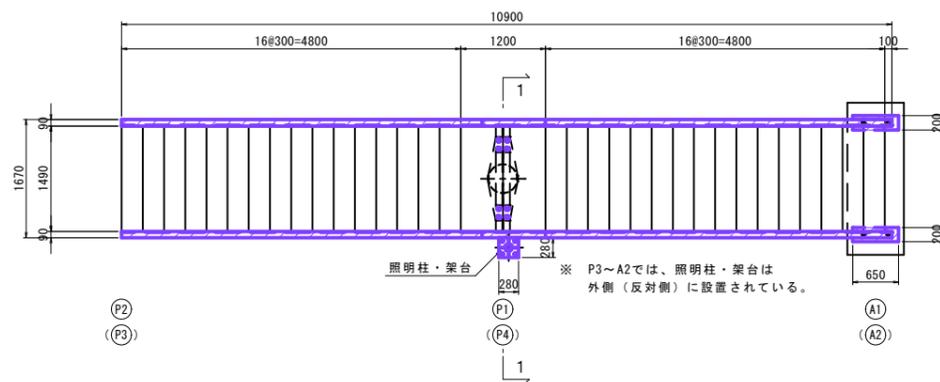


正面図

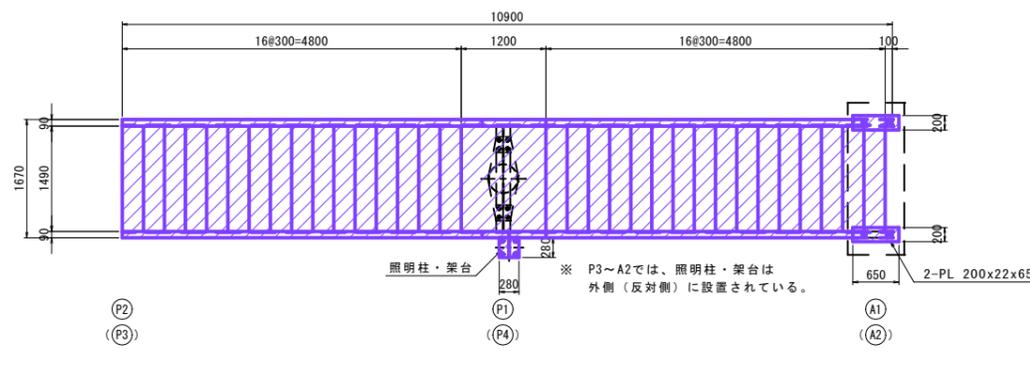
A1-P2 (P3-A2)



平面図 (上面)



平面図 (下面)



※ P3~A2では、照明柱・架台は外側（反対側）に設置されている。

※ P3~A2では、照明柱・架台は外側（反対側）に設置されている。

注記

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 階段工補修図 (その1)		
作成年月日	令和7年5月		
縮尺	S=1:50	図面番号	16 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

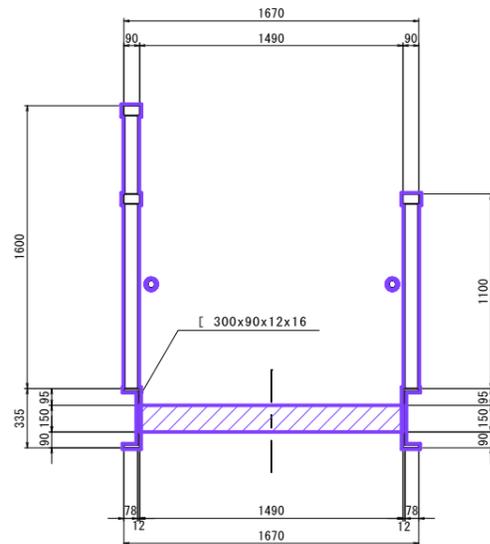
末武横断歩道橋 階段工補修図 (その2)

< 塗装塗替工 (その2) >

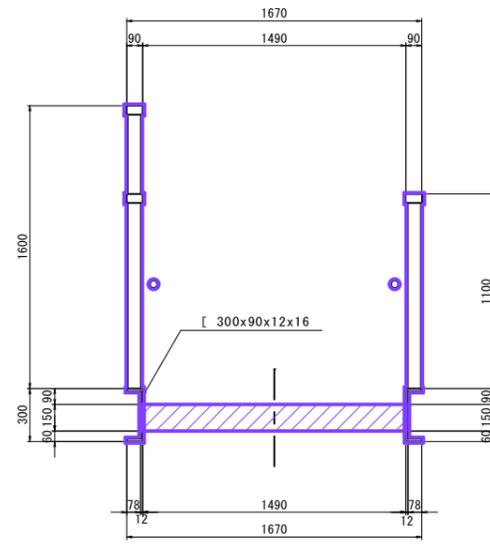
凡 例

補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

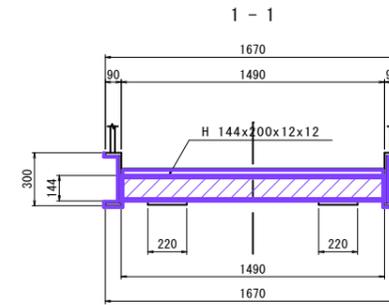
階段部断面図 S=1:20



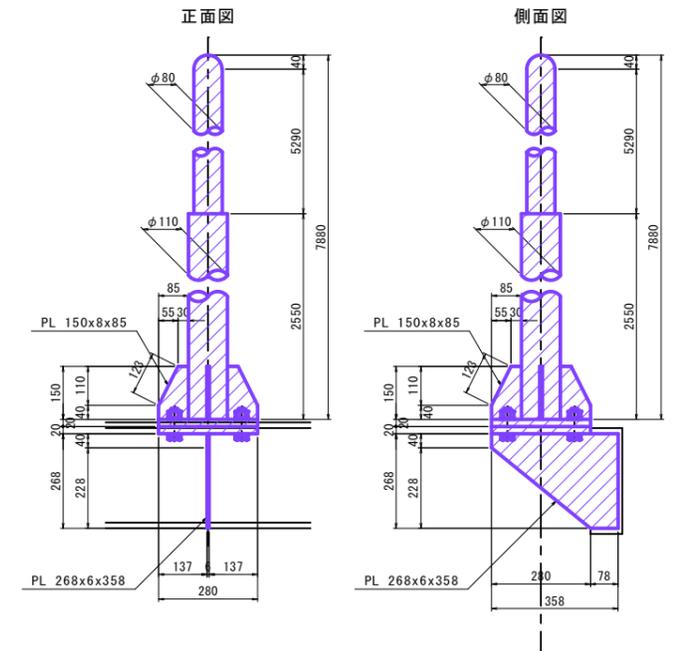
踊場部断面図 S=1:20



P1, P4橋脚部断面図 S=1:20

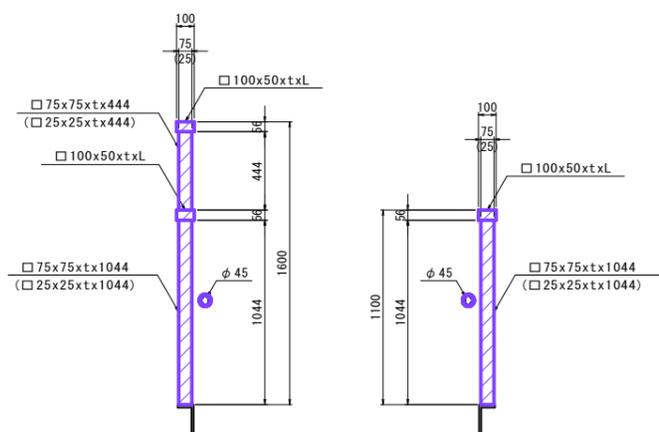


照明柱・架台詳細図 S=1:10



階段部高欄詳細図 S=1:20

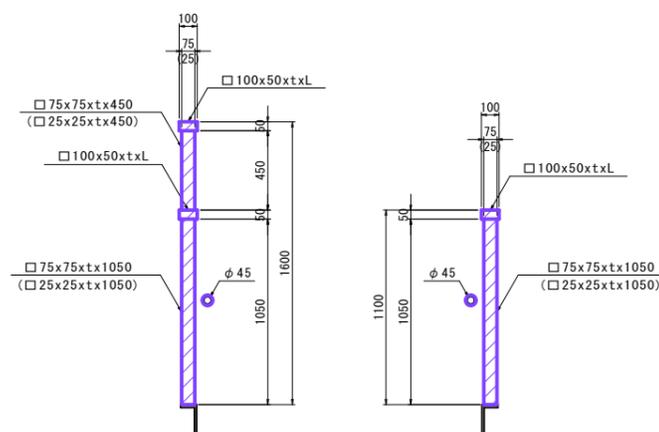
歩道側 支柱部 (縦棧部) 車道側 支柱部 (縦棧部)



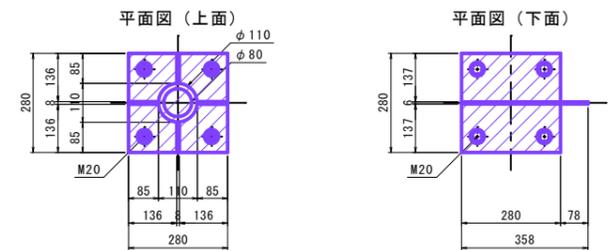
※ () 内は、縦棧部を示す。

踊場部高欄詳細図 S=1:20

歩道側 支柱部 (縦棧部) 車道側 支柱部 (縦棧部)



※ () 内は、縦棧部を示す。



注記)

1. 施工前には必ず現状寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 補修断面は補修標準図を参照すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 階段工補修図 (その2)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	17 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

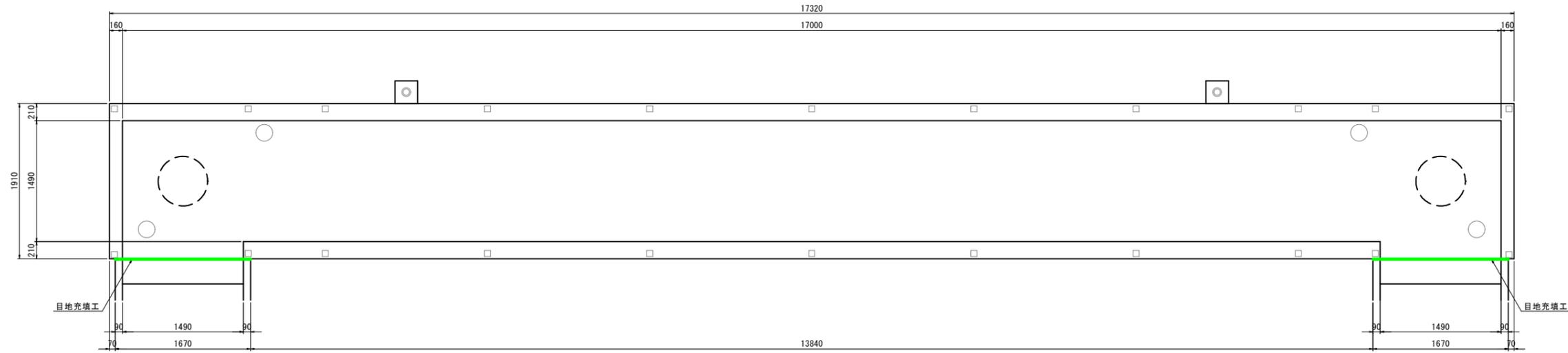
末武横断歩道橋 階段工補修図 (その3)

<目地充填工>

凡 例

補修の種類	図面表示
目地充填工	

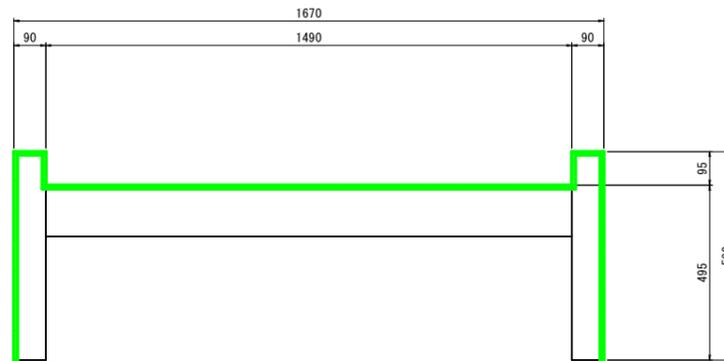
平面図 S=1:30



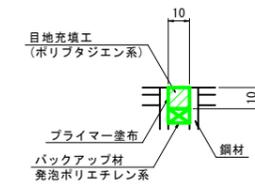
P2

P3

目地充填工断面図 S=1:10



目地充填工 S=1:5
(ポリブタジエン系シール材)



注記)

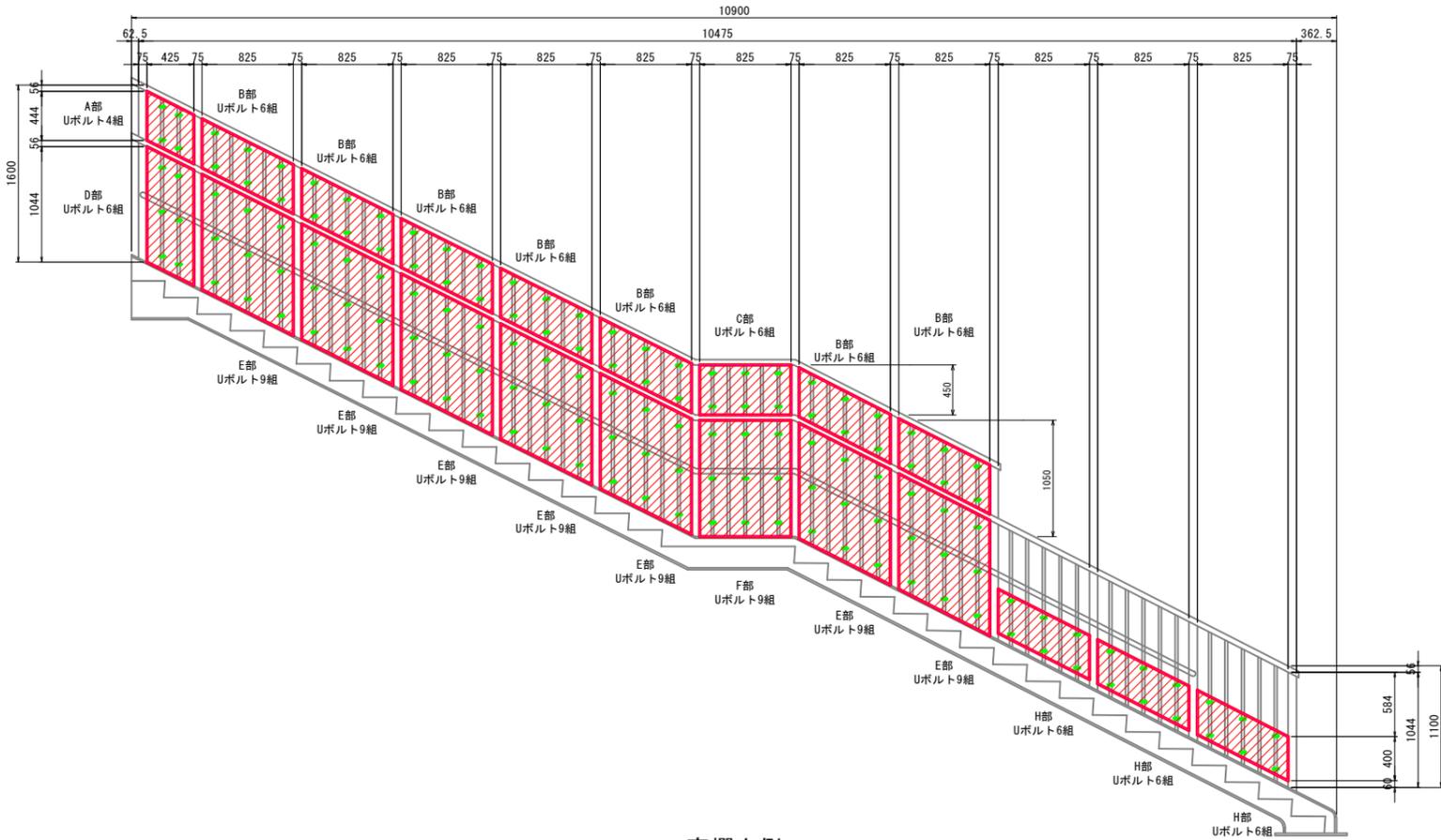
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認のち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 階段工補修図 (その3)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	18 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

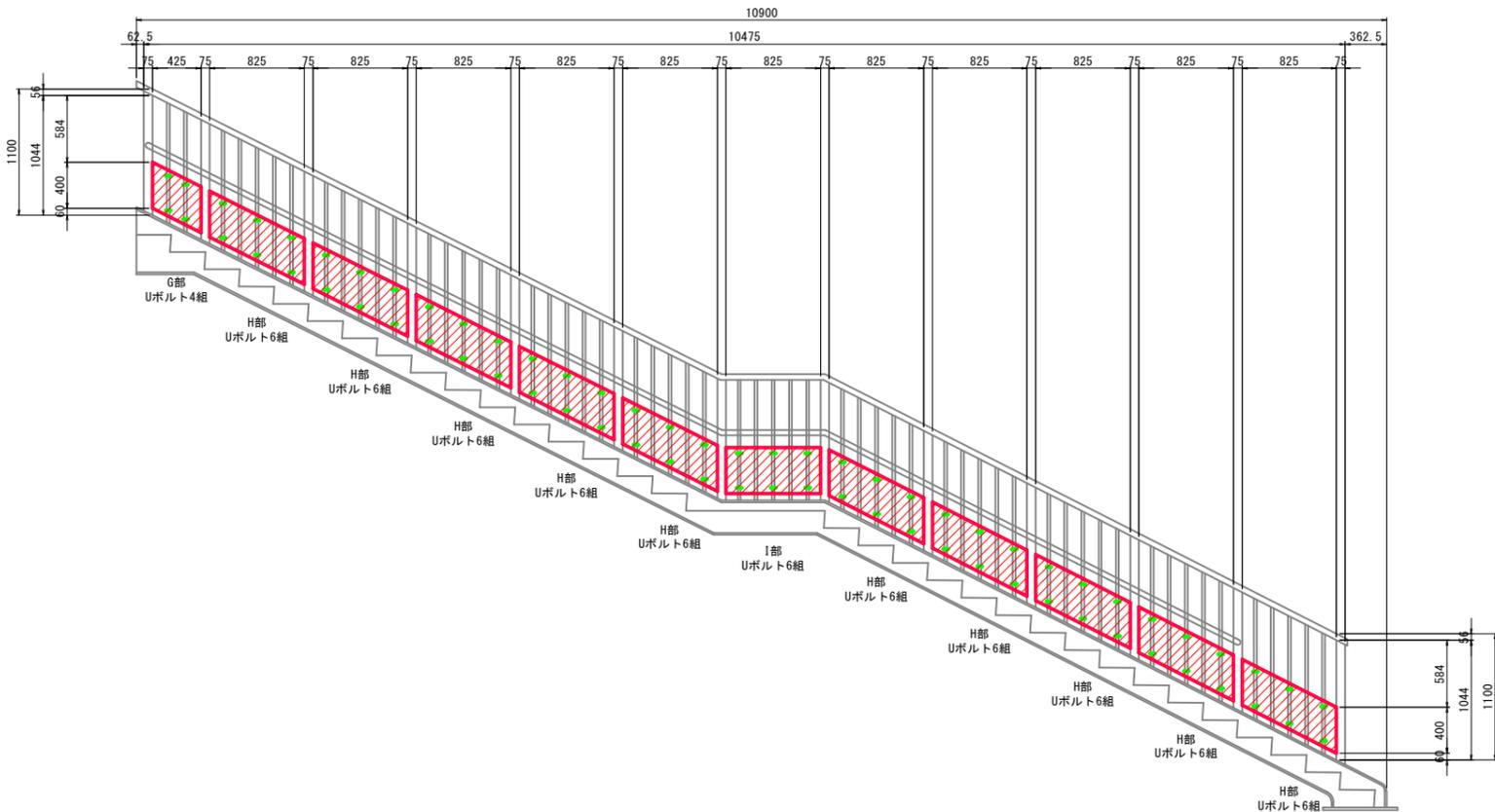
末武横断歩道橋 階段工補修図 (その4)

<部材取替工>

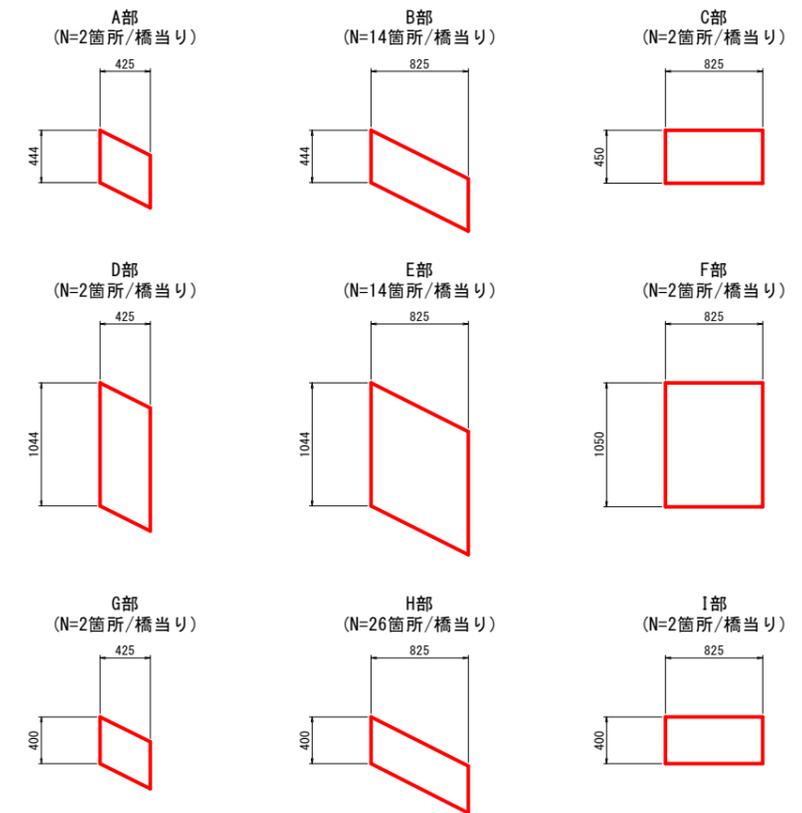
高欄外側 S=1:30



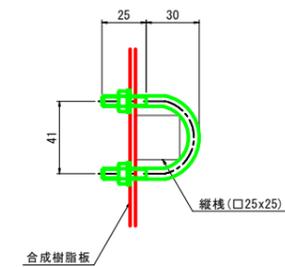
高欄内側 S=1:30



形状図 S=1:30



Uボルト参考図 S=1:2



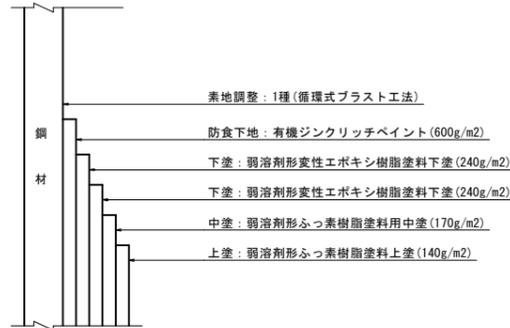
注記)
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認のち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 階段工補修図 (その4)		
作成年月日	令和7年5月		
縮尺	図示	図面番号	19 / 23
備考	当初設計		
事業者名	下松市		

末武横断歩道橋 補修標準図

塗装塗替工

(Rc-I 塗装系)



※ 施工手順

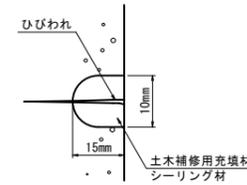


※ 注

- 素地調整はプラスト法により、除錆度はISO Sa 2 1/2 とする。
- 原則スプレーによる塗装とする。
- 塗装仕様は（公社）日本道路協会 鋼道橋構防食便覧に準拠する。

ひびわれ補修工

ひびわれ充填工法



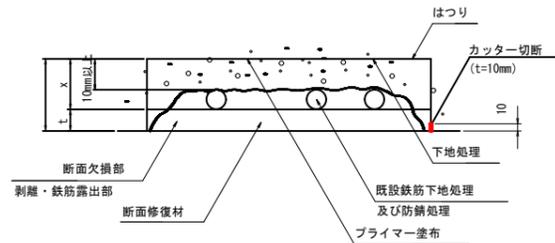
- 充填対象となるひびわれ幅は、1.0mm以上のものとする。ただし鉄筋腐食を伴うものは断面修復工法とする。
- ひびわれ充填材はシーラント系とし、伸び率800%以上の材料を使用すること。

(参考：建設省総合技術開発プロジェクト)



断面修復工法(ポリマーセメントモルタル)

防錆処理が必要な場合



※上図 t はかぶり厚（調査結果）、xは鉄筋前面までの距離とする。

ただし、数量計算上は簡易的に、横面：T=50mm、下部工：T=100mmとする。

- 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ10mm程度コンクリートカッターにより切断目地を入れ、入念に施工する。
- 断面修復部のかぶりは10mm以上かつ鉄筋径以上確保すること。
- 断面修復後のマクロセル腐食を極力防止するため、適切な防錆処理を施すこと。
- 断面修復材はポリマーセメントモルタルとする。



補修材の要求性能

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

ポリマーセメントモルタルの要求性能	
力学的性能	設計および施工条件
要求性能	設計および施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること (設計基準強度以上) (21N/mm ²)
付着強度	1.5N/mm ² 以上

ポリマーセメントモルタルの性能例

施工方法	左官		吹付け		完成
	普通	軽量	普通	普通	
硬化性	-				
軽量性	-				
単位容積質量 (kg/l)	1.8~2.2	1.3~1.6	1.8~2.1	1.5~2.2	2.1~2.2
フロー	120~160	110~150	120~160	140~250	~300
硬化時間 (h)	3~8	3~10	0.5~2	3~8	4~15
圧縮強度 (N/mm ²)	材齢 3h	-	-	3~15	-
	材齢 1d	5~25	3~25	10~30	5~15
	材齢 7d	20~40	5~30	20~40	20~40
	材齢 28d	25~60	10~35	25~40	30~60
付着強度 (N/mm ²)	標準	1.8~3.4	1.8~2.6	2.0~2.8	2.0~3.5
弾性係数 (kN/mm ²)	16~21	12~15	13~21	14~21	17~21
引張強度 (N/mm ²)	3~6				
収縮率 (×10 ⁻⁶)	200~1000				
熱膨張率 (×10 ⁻⁶ /°C)	8~17	9~13	10~15	9~17	-

「表面保護工法 設計施工指針(案)：土木学会」

注記)

- 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認のち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事
図面名	末武横断歩道橋 補修標準図
作成年月日	令和 7 年 5 月
	図面番号 20 / 23
備考	当初設計
事業者名	下松市

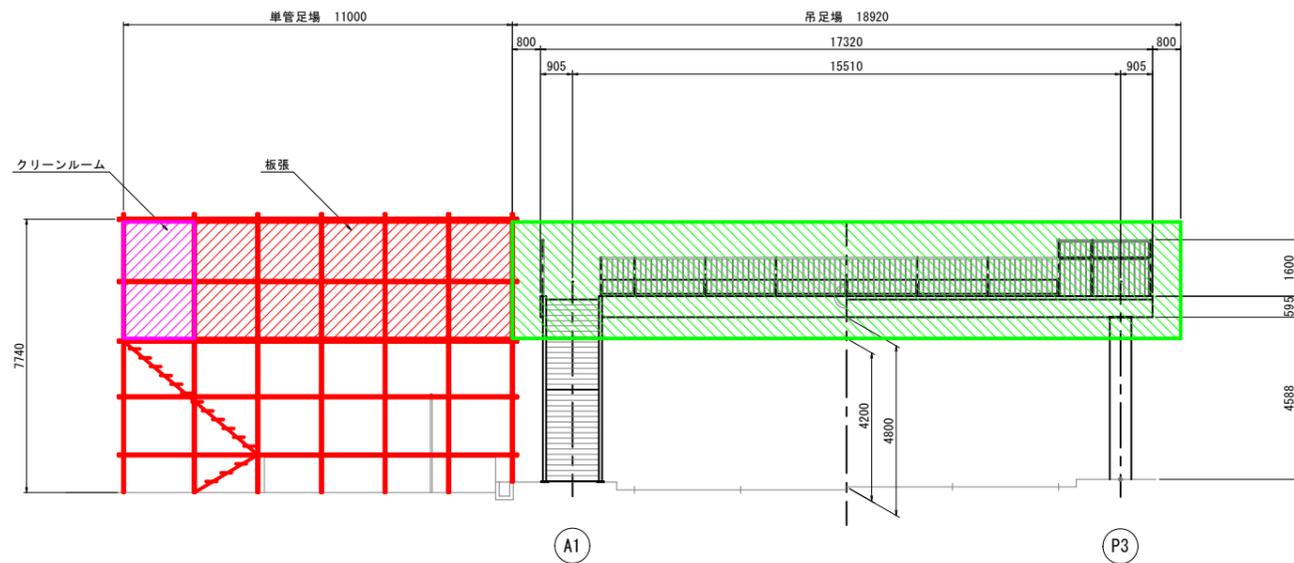
末武横断歩道橋 仮設参考図 (その1)

凡 例

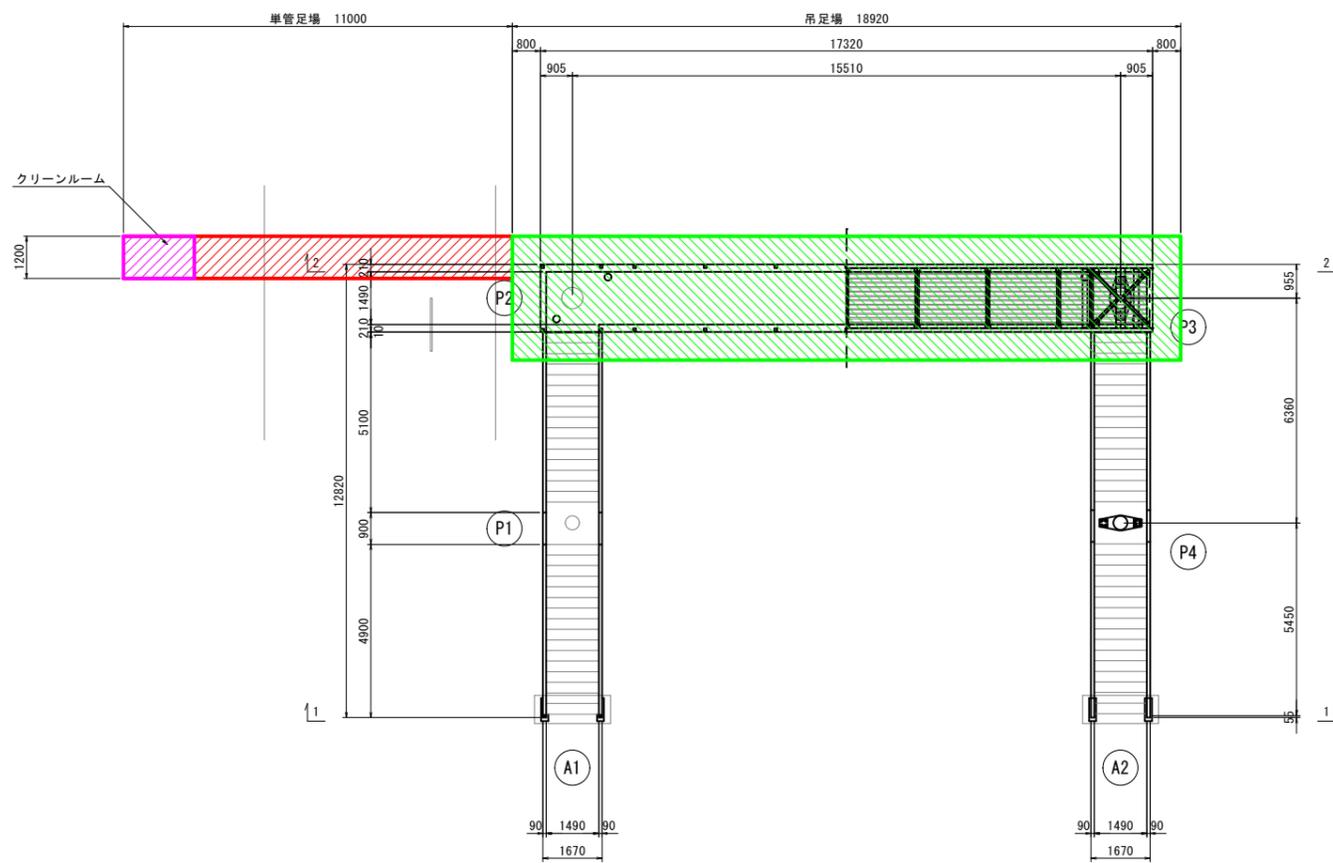
補修の種類	図面表示
吊足場 Type A3	
単管足場	
クリーンルーム	

正面図 S=1:100

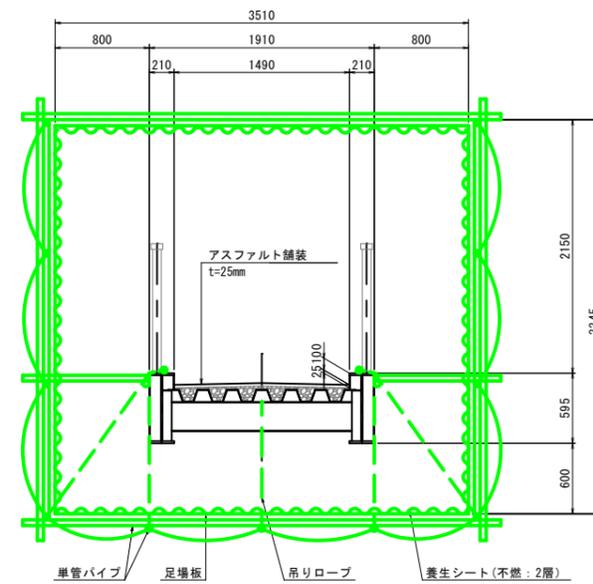
1-1 2-2



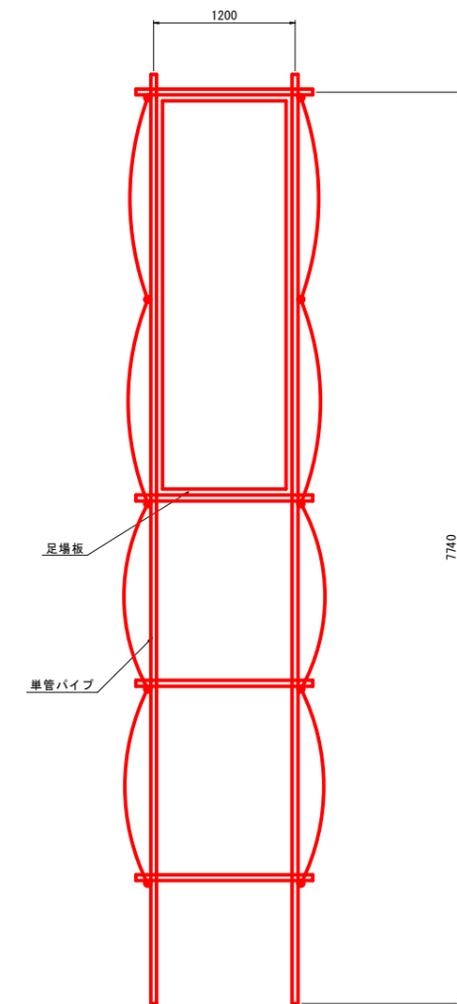
平面図 S=1:100



上部工断面図 S=1:30



単管足場断面図 S=1:30



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 仮設参考図 (その1)		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	図示	図面番号	21 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		

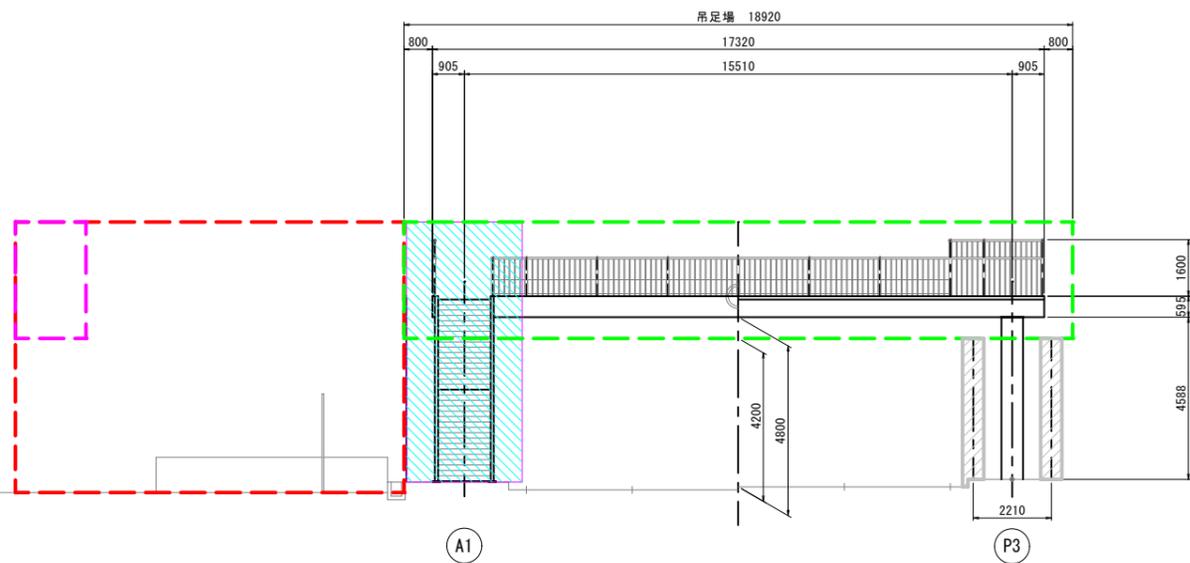
末武横断歩道橋 仮設参考図 (その2)

凡例

補修の種類	図面表示
橋脚足場(単管足場)	
階段足場(単管足場)	
照明足場(単管足場)	

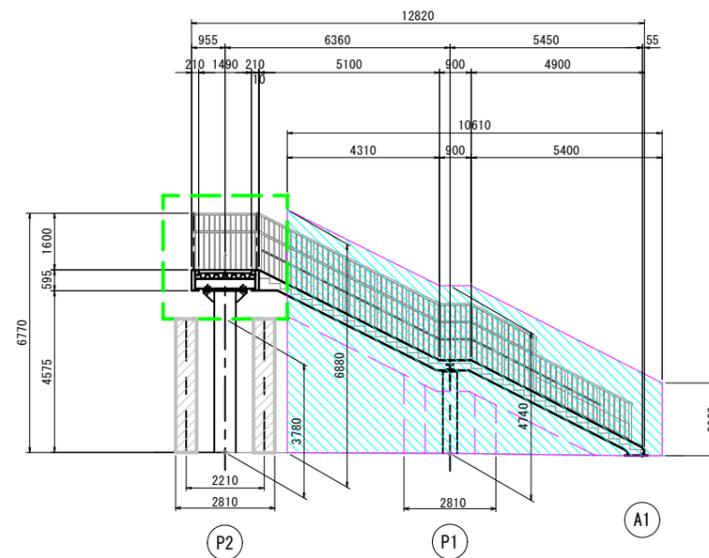
正面図 S=1:100

1-1 2-2

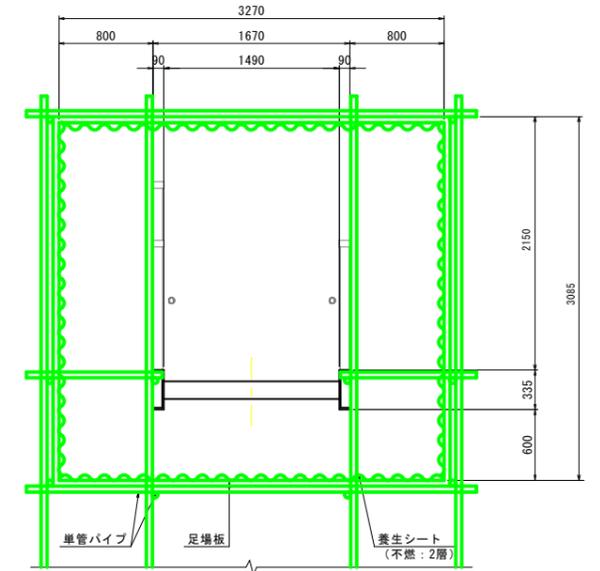


側面図 S=1:100

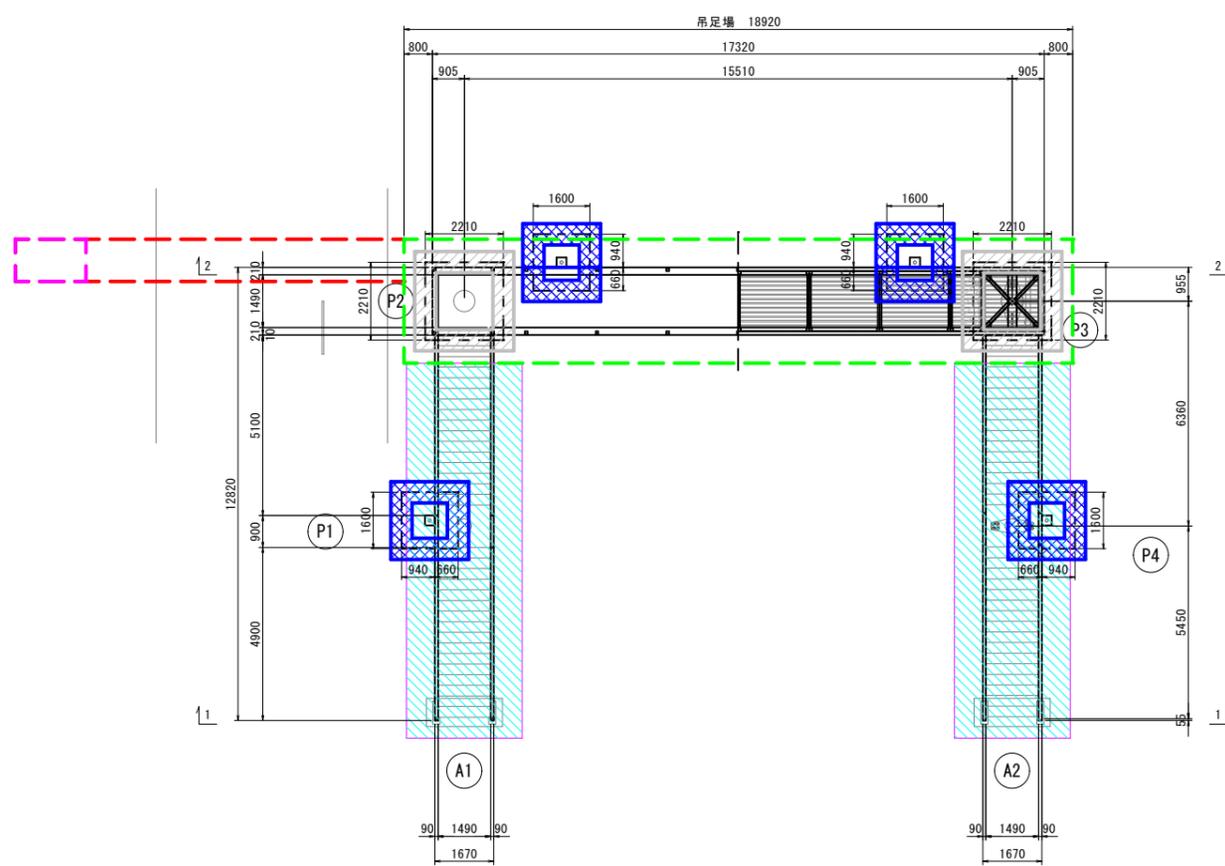
A1側階段



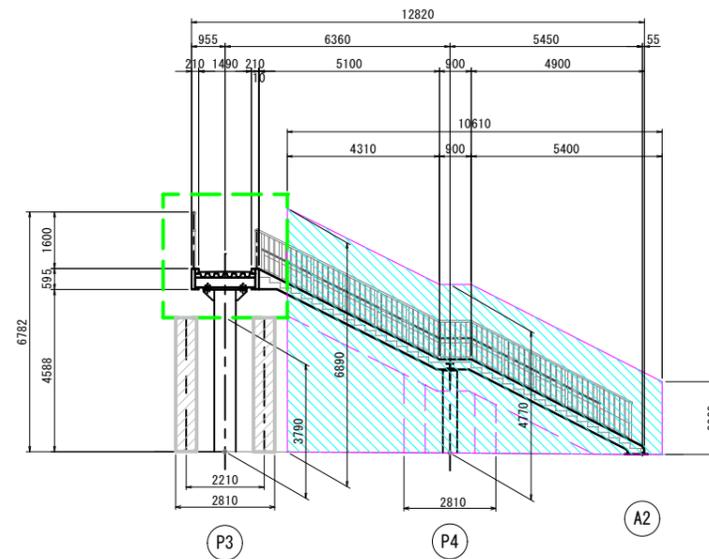
階段部断面図 S=1:30



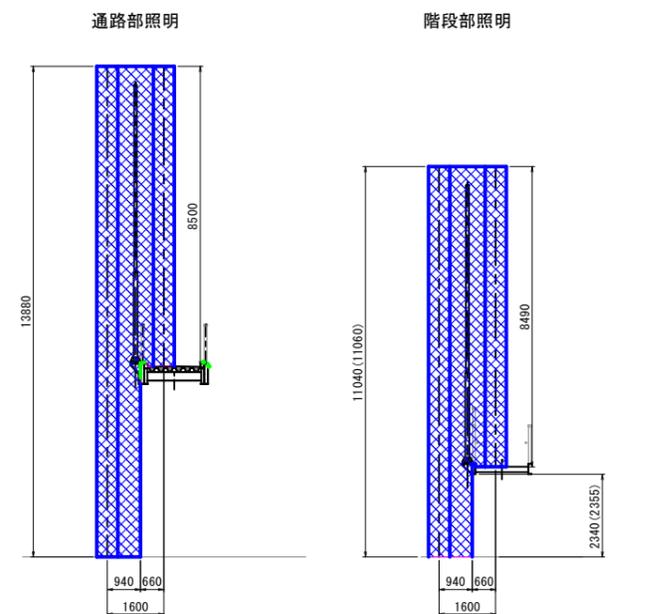
平面図 S=1:100



A2側階段



照明足場側面図 S=1:100



※()内寸法はA2橋台照明の寸法を示す。

注記)

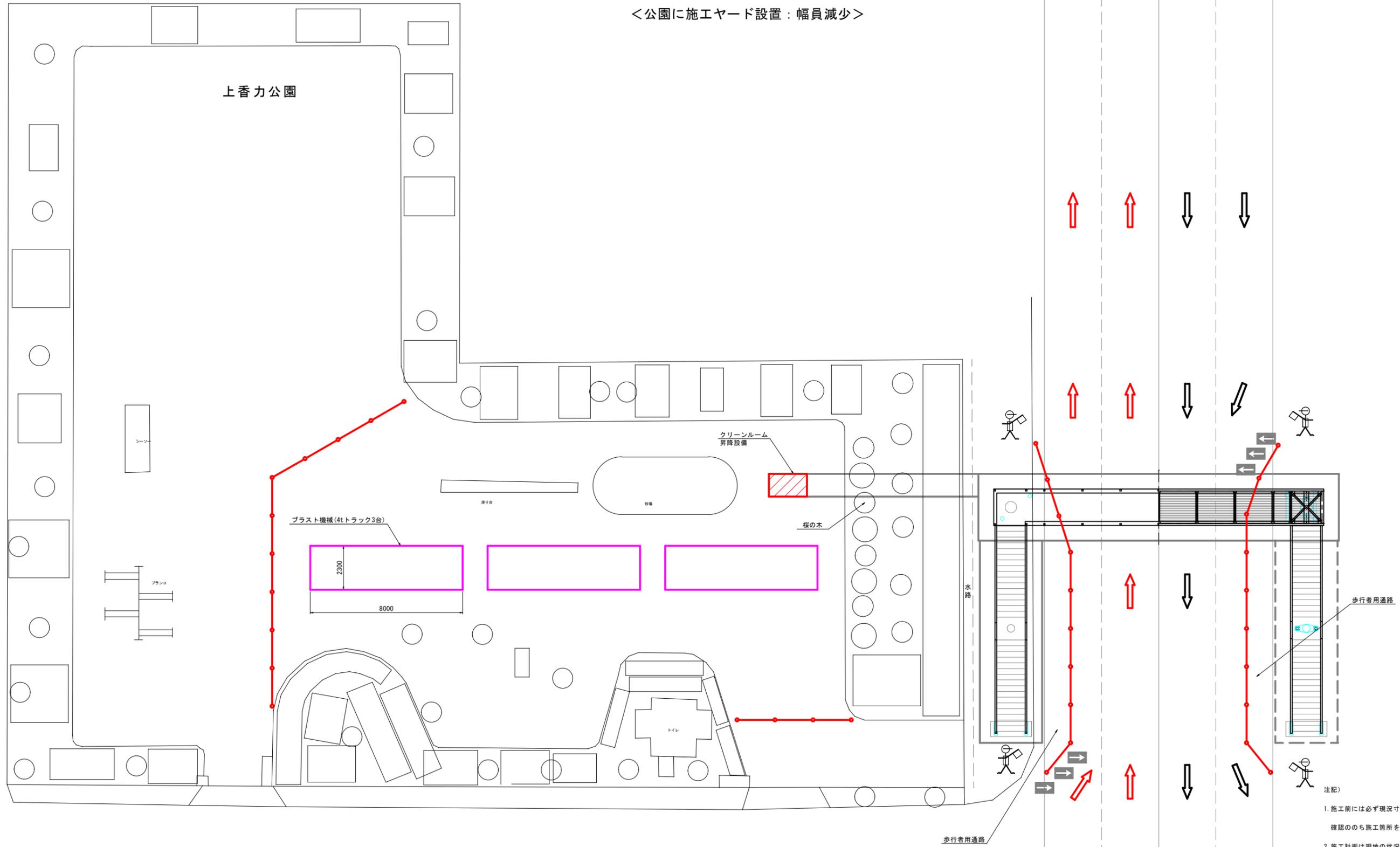
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

工事名	末武横断歩道橋補修設計業務委託
図面名	末武横断歩道橋 仮設参考図 (その2)
作成年月日	令和7年5月
縮尺	図示 図面番号 22 / 23
備考	当初設計
事業者名	下松市

末武横断歩道橋 施工計画参考図

S=1:100

<公園に施工ヤード設置：幅員減少>



- 注記)
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認のち施工箇所を決定すること。
 2. 施工計画は現地の状況によって変更すること。
 3. 公園内での足場設置について、影響のある桜の木は枝打ち程度とすること。

工事名	末武横断歩道橋補修工事		
図面名	末武横断歩道橋 施工計画参考図		
作成年月日	令和 7 年 5 月		
縮 尺	S=1:100	図面番号	23 / 23
備 考	当初設計		
事業者名	下 松 市		